

2023年改訂版 明石川オリジナル図鑑



神戸市の小学生が川を調査し編集した手作りの図鑑です

玉一アクアリウムとは

- ・メンバー:神戸市西区の玉津第一小学校の子どもたちとリーダー、保護者
- ・活動回数:明石川で1週間に2回くらい
- ・活動内容:魚・水生生物・植物の調査・捕獲など

年間を通じて、希少種の保護、外来種の駆除をしています。



明石川について



明石川は、源流である北区山田町から河口の位置する明石市まで、延長約26km、流域面積約127km²に及ぶ河川です。

流域の大部分は神戸市西区の田園地帯であり、田園風景の中を緩やかに流れ、下流域で櫛谷川、伊川と合流した後、播磨灘に注ぎます。

玉津第一小学校は、明石川と櫛谷川の合流地点の近くに位置しています。

始めに

井上 倅希

僕はアクアリウムに入ってからまだ約4ヶ月しか経ってないけど、入った頃と比べて色々な魚を捕まえられるようになりました。魚の知識も増えたので、調査のためにもっとたくさん捕まえたり、僕が知らない水辺の生き物をたくさん知れるようにがんばりたいです。そして、後輩たちにも教えてあげられるようにして、アクアリウムのみんなが協力して安全にこれからも明石川の保全活動をしていきたいです。

図金監作成にあたって (中 初音)

わたしが 図金監作成にあたって、難しかったところは、字を書くことです。みんなに、見てもらうから、きんちょうしてしまふので、なかなかきれいに書くことができなくなっています。それに、もともと字を書くことが苦手だったので、少しでも上手になるように、百字や長など練習しました。楽しかったことは、生き物のことを話したりすることです。いろんなことを教えてもらえるので、とても楽しいです。これからも、活動力をかえはりたいです。

目次 (宮本彩音)

甲殻類

ヨシエビ	1
ウシエビ	2
ミナミテナガエビ	3
ヒラテナガエビ	4
テナガエビ	5
スジエビ	6
ミゾレヌマエビ	7
カフリヌマエビ属	8
アメリカザリガニ	9
クロベンケイガニ	11
オオヒライソガニ属	12

モクズガニ	13
サワガニ	14
昆虫類	
アオモンイトトンボ	15
ハグロトンボ	16
コオニヤンマ	17
ウチワヤンマ	18
オニヤンマ	19
ギンヤンマ	20
シオカラトンボ	22
コオイムシ	23
タイコウチ	25

ミズカマキリ	26
ヒメミズカマキリ	27
チラカゲロウ	28
シロタニガフカゲロウ	29
ウデマガリユカゲロウ	30
サホコカゲロウ	31
オオトゲエラカゲロウ	32
コガタシマトビケラ	33
ハイロゲンゴロウ	34
コガムシ	35
貝類	
シナミタガイ	36
イシガイ	37

マツカサガイ	38
マシジミ	39
タイワンシジミ	40
魚類	
アカエイ	42
イセゴイ	43
ニホンウナギ	44
アユ	46
カマツカ	51
コウライモロコ	52
コウライニゴイ	54
コイ	55
ゲンゴロウブナ	57

ギンブナ	58
ヤリタナゴ	59
タイリクバラタナゴ	60
オイカワ	62
カワムツ	64
ヌムツ	65
タモロコ	67
モツゴ	69
チュウガタスジシマドジョウ	70
ドジョウ	71
ロングトスガー	72
タイワンドジョウ	73
カムルチー	74

スズキ	75
オオクチバス	76
ブルーギル	78
クロホシフイダイ	80
クロホシマンジュウダイ	81
シロギス	82
コトヒキ	83
シマイサキ	84
クロダイ	85
キチヌ	86
ムラソイ	87
マタナゴ	88
メジナ	89

カワアナゴ	90
ドンコ	92
ヒメハゼ	94
ヒナハゼ	95
アベハゼ	97
カワヨシホリ	98
シマヒレヨシホリ	99
シマヨシホリ	100
ゴクラクハゼ	101
チチブ	103
ウロハゼ	104
マハゼ	105
ミズハゼ	106

ウキゴリ	107
スミウキゴリ	108
マゴチ	109
ミナメダカ	110
カダヤシ	112
グッピー	113
ギギ	115
ナマス	118
テングヨウジ	121
ホラ	122
メナダ	123
クサフグ	124
シマフグ	125

両生・爬虫類

ウシガエル	126
スッポン	128
アカミミガメ	129
クサガメ	131
ニホンイシガメ	132
ニホンマムシ	133
ヒバカリ	134
シマヘビ	135
アオダイショウ	136

哺乳類

カヤネズミ	137
ヌートリア	138

ヨシエビ

葦蝦

Metapenaeus ensis

クルマエビ科 ヨシエビ属

関東地方より南

15~18cm

内湾や汽水域の砂泥底に生息し、明石川では河口付近の橋脚まわりの深みの泥底に多くいます。河口にいて、下流の淡水域まで来るとはありません。食用として売られています。(西岡 龍介)



ヨシエビ (絵・永田 惇人)



明石川河口付近で捕まえたヨシエビの幼体です。汽水域にいます。



観察ケースに入れて観察しました。ヨシエビは明石川では河口付近でしか捕れません。

ウシエビ

牛蝦

Penaeus monodon

クルマエビ科 ウシエビ属

東京湾より南

30cm

インド太平洋の熱帯や亜熱帯地域に分布していますが、西日本にもいて、明石川下流～河口でも発見されました。主に海に生息していますが、汽水域や淡水域でも大丈夫です。クルマエビに似ていて全体的に黒く、別名ブラックタイガーとして食用でも有名で養殖もされています。
(大浦結那、巨優愛)



ウシエビ (絵 永田 惇人)



干潮の明石川下流～河口で調査をしているようです。ウシエビはこの近くで捕れました。



干潮の明石川下流～河口で捕れたウシエビの幼体です。ブラックタイガーが明石川にいるとは思いませんでした。

ミナミテナガエビ

南手長蝦

Macrobrachium formosense

テナガエビ科 テナガエビ亜科 テナガエビ属

福島県 福井県より西の本州、四国、九州

10cm

神戸市Cランク

明石川水系では中流～下流や支流の伊川に生息しています。2021年に神戸市自然環境課の土井さんに見分け方を教えていただいて明石川での生息が確認できました。数はヒラテナガエビやテナガエビより少ないです。ヒラテナガエビより下流にいることが多く、テナガエビよりは上流にいることが多く、性質は中間ぐらいです。

(宮本 彩音)



ミナミテナガエビ (絵・永田 博人)



明石川中流で捕れたミナミテナガエビの未成年体です。胸のM字型の模様がおぼろげにみえているのが特徴です。



明石川下流で捕れたミナミテナガエビの成体のペアです。M字の胸にテナガエビより足の爪が短いのも特徴です。

ヒラテテナガエビ

平手手長蝦

Macrobrachium japonicum

テナガエビ科 テナガエビ亜科 テナガエビ属

千葉県より南の本州、四国、九州

7~9cm 兵庫県Aランク
神戸市Bランク

明石川水系では中流~下流や支流の伊川や櫛谷川などにも生息しています。テナガエビやミナミテナガエビよりも上流まで遡り、浅くて石が多くて流れが早い瀬を好み、石の下にかくれています。足が強くて陸上でも歩こうとします。今の明石川は、テナガエビやミナミテナガエビよりもヒラテテナガエビが捕れるほど、たくさん増えています。(巨 優愛)



ヒラテテナガエビ(絵・永田惇人)



明石川中流で捕れたヒラテテナガエビの成体です。第2胸脚が長くて太くて平たくなっていて、足も太くて丈夫で、タモ網を登ってくることもあります。



明石川中流で捕れたヒラテテナガエビの幼体です。脚には何本もの縦縞模様があり、足の爪は短いです。

テナガエビ

手長蝦

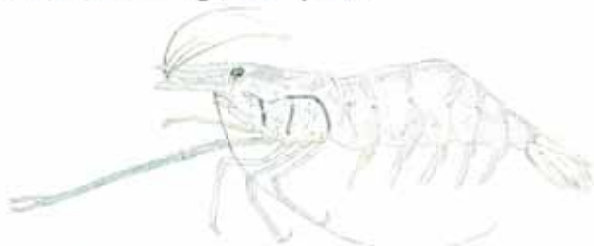
Macrobrachium nipponense

テナガエビ科 テナガエビ亜科 テナガエビ属

本州、四国、九州

10cm

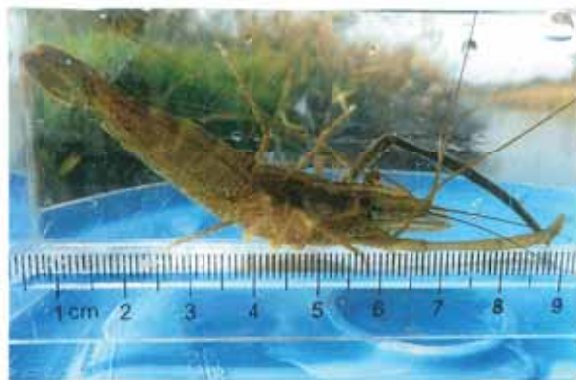
明石川水系では中流～河口近くまでの下流、そして多くの支流やその用水路などにも生息しています。流れの弱い多少石がある砂底を好み、時にはへドロが溜まっている汚いコンクリート張りの用水路にもいます。ヒラテナガエビや、ミナミテナガエビよりも足が細くて弱く、足の爪が長いです。(宮本 彩香)



テナガエビ (絵、永田 惇人)



明石川下流で捕れたテナガエビの成体です。胸にはm字型のような模様があります。



明石川中流で捕まえたテナガエビの成体です。ニホンウナギと一緒に石の下にかくれていました。

スジエビ[♂]

筋蝦

Palaemon paucidens

テナガエビ科 テナガエビ亜科 スジエビ属

北海道～九州、種子島、屋久島

3.5cm～5cm

明石川水系では中流～下流、支流、そして用水路などにも生息しています。テナガエビ属は川底の石の下にすることが多いのに対して、スジエビは水中の草の茂みの中にいることが多いです。体に7本のスジがあります。

(井上 倅希)



スジエビ(絵・永田 惇人)



平野大池用水路で捕まえたスジエビです。明石川本流よりも用水路で大量発生します。



明石川中流で捕まえたスジエビの成体です。複眼が飛び出しているように見えるのが特徴です。

ミゾレヌマエビ

曇沼蝦

Caridina leucosticta

ヌマエビ科 ヒメヌマエビ亜科 ヒメヌマエビ属

新潟県 千葉県より西の本州、四国、九州
南西諸島

2~3cm

明石川の下流の草の茂みに多く生息し、支流の伊川や明石川中流でも他種のヌマエビと共に数は少ないですが生息しています。透明感のあるきれいで細長いヌマエビで、他のカワリヌマエビなどに比べて弱く、少し飼いにくいヌマエビです。(弓削 朱花梨)



ミゾレヌマエビ (絵、永田 惇人)



明石川下流にいたミゾレヌマエビです。下流の流れの弱い草の茂みにはたくさんいます。



明石川中流にいたミゾレヌマエビです。数は多くありませんが、カワリヌマエビ属と共にミゾレヌマエビも捕れます。

カワリヌマエビ属

Neocaridina
ヌマエビ科 カワリヌマエビ属

日本各地
2~3cm

外来種

明石川水系の本流や支流、用水路にとても多く、釣り餌のブリエビとして中国や韓国から輸入されたものが逃げたり放流されたものと言われていますが詳細は不明です。色や模様は変化が多く、在来種のミナミヌマエビにとてもよく似ていて、最初はミナミヌマエビと思っていました。
(佐野 ころ)



※イラストはミナミヌマエビです (絵・永田 惇人)



明石川支流の田中川用水路で捕まえたカワリヌマエビ属の成体です。



カワリヌマエビ属のメスの成体です。オスよりも大きくなります。

アメリカザリガニ

Procambarus clarkii

アメリカザリガニ科 アメリカザリガニ属
放流により日本全国

8~12cm

特定外来生物

兵庫県注意種

総合対策外来種

神戸版ブラックリスト

緊急対策外来種

外来生物種

泥の多い田んぼや用水路や池などの流れがゆるやかな場所や流れのない場所に多く、明石川水系では明石川本流よりも流れがゆるやかな支流の細流や用水路などに多く生息しています。馬区除を続けてきた結果、現在は減ってきています。(西岡 龍之介)



アメリカザリガニ

(絵・弓削 朱花梨)



明石川水系で捕れるアメリカザリガニは、今はほとんどが幼体~未成体です。



明石川水系の用水路で捕まえた マッカチンとも呼ばれるアメリカザリガニの成体です。最近では少なくなりました。



明石川中流で以前に捕まえたアメリカザリガニの成体です。



明石川支流の田中川にたくさんいたのをザリガニ釣りて捕まえました。



明石川支流の福知川源流で捕まえたアメリカザリガニのメスの成体です。おなかに幼体を抱えています。



寄生虫を予防するため30分間ボイルして身を取り出します。このあと天ぷらやエビチリにしまあがエビチリ(ザリチリ)が一番人気でした。

クロベンケイガニ

黒弁慶蟹

Orisarma dehaani

ベンケイガニ科 クロベンケイガニ属

本州より南

3cm

兵庫県Cランク
神戸市Cランク

明石川下流～河口にいるカニで、石組みのすき間や泥の中に穴を掘って生活しています。
見かける確率は、水の中よりも湿った陸上の方がかなり高く、明石川下流～河口から少し離れた道路や公園や野原にいることもあります。(西岡 龍一)



クロベンケイガニ (絵: 弓削 朱花梨)



明石川河口で干潮時に見つけたクロベンケイガニ。この時は水の中にいました。



明石川下流の石組みのすき間にかくれていました。湿っていますが水はよい場所です。

オオヒライソガニ属

大平磯蟹

Varuna sp.

モクスガニ科 オオヒライソガニ属

相模湾～インド西太平洋海域沿岸

5 cm

体が平べったくて、モクスガニに似ています。
明石川下流の浅みにいたのを捕まえたが、ハサミではよく
足にやわらかい毛が密に生えていました。

2021年秋に1匹目が捕れ、2022年夏に2匹目が捕れ、
それ以降は明石川下流の伊川合流点付近で、オオヒライソ
ガニ属の小さな幼体がたくさん捕れるようになりました。
しかし、まだオスの成体が捕れていないため、オオヒライソガニ
かタイワンオオヒライソガニか、まだ同定できていません。

(西岡 龍之介)



オオヒライソガニ属 (絵・永田 惇人)



明石川下流の伊川合流点付近の明石川左岸の浅瀬
を歩いていたオオヒライソガニ属の未成年体です。



明石川下流の伊川合流点付近の落差工の石の
下には、たくさんのオオヒライソガニ属の幼体がい
ます。

モクスガニ

藻屑蟹

Eriocheir japonica

イワガニ科 モクスガニ属

小笠原諸島を除く日本全国

7~8 cm

明石川本流や支流の伊川、櫛谷川、田中川、福知川などどこでもよく見かけるカニです。更に支流の用水路各や水路にもいますが、成体になると海に下り海で産卵します。幼生は海でプランクトンとして成長し、幼体となって川を遡ります。はさみに藻の屑のような毛が生えているのが特徴です。(井上倅希)



モクスガニ (絵・弓削朱花梨)



明石川中流で捕まえたモクスガニのメスの未成年体です。明石川水系にはモクスガニがたくさんいます。



月脱皮して間もないモクスガニの成体です。まだやわらかく脱力感があります。この個体はもう変色していますが、脱皮直後のはさみの毛は真っ白です。

サワガニ

沢蟹

Geothelphusa dehaani

サワガニ科 サワガニ属

青森県～トカラ列島

2～3cm



蘧谷川にいたサワガニの成体です。近づいたらすぐに逃げてしまいまじ。

日本固有種で一生涯を淡水で過ごす純淡水性のカニです。明石川では源流～上流に生息していますが、支流の福知川や、まれに校区内のニツ屋橋～若宮橋付近の蘧谷川で見つかることもあります。

水のきれいな場所を好み、きれいで水が冷たい川なら、用水路にもたくさん生息しています。(佐野 ころ)



サワガニ

(絵: 大浦結那)



サワガニ(青)

(絵: 弓削朱花梨)



高知県の国分川支流の新改川にいた青いタイプのサワガニです。とてもきれいな色でした。

アオモンイトトンボ

青紋系蜻蛉

Ischnura senegalensis

イトトンボ科 アオモンイトトンボ属

本州～沖縄

3.1～3.6 cm

明石川水系では上流近くから河口まで広く生息しています。幼虫は、小さい時のハグロトンボの幼虫と感じが似ています。

オスの成虫は、しっぽの先が青く、メスの成虫はオスの成虫と同じ色のタイプと違うタイプがあり、成虫になつたばかりの頃はきれいなオレンジ色の個体もいます。

(大浦結那)

幼虫



成虫



アオモンイトトンボ (絵・弓削 朱花梨)



明石川中流の流れのゆるやかな草の茂みでつかまえたアオモンイトトンボの幼虫。ヌマエビなどと一緒にはいました。



河川敷の草の茂みにいたのをつかまえたアオモンイトトンボの成虫。小さくてあまり目立たないけれど、たくさんいます。

ハグロトンボ

羽黒蜻蛉

Calopteryx atrata

カワトンボ科 アオハダトンボ属

本州～屋久島

57mm～67mm

成虫は黒いはねをひらひらさせて、ゆるやかに飛びます。
幼虫や成虫は明石川水系にとてもたくさんいます。
幼虫はヤゴの中では弱々しく見えて、おしりを振って泳ぎます。
羽化した成虫は、しばらくは暗い林の中などで生活し、
成長したら水辺に戻ってきます。(徳田梨花)



ハグロトンボ幼虫



ハグロトンボ成虫

(絵・弓削 朱花梨)



ハグロトンボの幼虫です。明石川水系には、とてもたくさんいます。



朝早く明石川水系に来ると、朝露のついた葉にとまって休んでいるハグロトンボの成虫をよく見ます。

コオニヤンマ

小鬼蜻蛉

Sieboldius albardae

サナエトホ科 コオニヤンマ属

北海道～屋久島

7.7cm～8.9cm

頭は体に比べてとても小さいです。成虫はオニヤンマよりも少し小さくヤンマと名前が似ていますがサナエトホの仲間です。幼虫は黒くて平べたくてかげた木の葉にそっくりです。明石川では中流から上流にすんでいます。(篠田 桜花)



コオニヤンマの幼虫



コオニヤンマの成虫

(絵・永田惇人)



明石川中流にいたコオニヤンマの幼虫でも小さなエビを食べています。



高知県の新改川でつかまえたコオニヤンマの成虫です。川の上をパトロールしながら3匹ぐらい飛んでいました。

ウチワヤンマ

団扇蜻蛉

Sinictinogomphus clavatus

サナエトボ科 ウチワヤンマ属

本州、四国、九州

70mm～87mm

明石川水系では平野大池でウチワヤンマが、明石川下流でタイワンウチワヤンマが見られます。お腹の先には、うちわのような突起があり、ヤンマと名前が付いていますが、コオニヤンマと同じくサナエトボの仲間です。開けた場所にとまり、成虫のオスは水辺を見渡せる場所にとまり見張りをしています。(井上幸希)



幼虫



成虫

ウチワヤンマ(絵・弓削 朱花梨)



明石川下流で捕まえたタイワンウチワヤンマの幼虫です。河原が湿地のようにふた開けた場所で捕れました。



平野大池の水辺にとまっているウチワヤンマの成虫です。飛んだり休んだりを繰り返していました。

オニヤンマ

鬼蜻蛉

Anotogaster sieboldii

オニヤンマ科 オニヤンマ属

日本全国

9 ~ 10 cm

日本のトンボの中で最も大きく、明石川では上流や支流の里地里山の細流に生息しています。

明石川が増水した時には幼虫が中流にも流されてくることがあります。

成虫のオスは、同じレートを回ったり来たりしてパトロールします。

明石川中流では、コオニヤンマやキヤンマに比べて数が少ないです。



オニヤンマ 成虫



オニヤンマ 幼虫

(絵: 永田 惇人)



明石川の本流には少ないオニヤンマの幼虫も里山の細流にはたくさんいます。



オニヤンマは成虫が大きいので幼虫も大きいです。増水のおとは、明石川中流にも流されてきます。

ギンヤンマ

銀蜻蛉

Anax parthenope julius

ヤンマ科 ギンヤンマ属

北海道～沖縄

70mm～80mm

成虫はコオニヤンマより少し小さくて、なわばりが広くオスはよくパトロールをしています。他のオスを見つけると激しく攻撃します。幼虫は大きく細長く、下あごを瞬間的に伸ばして餌を捕まえます。

明石川水系には幼虫がたくさんいて 玉津第一小学校のビオトープにも幼虫がたくさんいるので校舎の中に成虫がよく迷い込んできます。(宮前陽仁)



ギンヤンマ幼虫



ギンヤンマ成虫

(絵 弓削朱花梨)



玉津第一小学校の水槽で飼っていたギンヤンマが羽化しました。しばらくして大空に飛んでいきました。



明石川中流で捕まえたギンヤンマの幼虫です。明石川水系には餌となるヌマエビやオイカワの幼魚が多いのでギンヤンマの幼虫も多いです。



明石川につながる用水路で産卵するギンヤンマの成虫のペアです。



明石川支流の櫛谷川で捕まえたカラフルなタイプのギンヤンマの幼虫です。櫛谷川ではたまにいます。



明石川支流の甲中川の用水路で捕まえた真っ黒いタイプのギンヤンマの幼虫です。



玉津第一小学校のビオトープで羽化したギンヤンマの抜け殻です。毎年産卵に来ています。

シオカラトンボ

塩辛蜻蛉

Orthetrum albistylum speciosum

トンボ科 シオカラトンボ属

ほぼ日本全国

48 ~ 57 mm

成虫は明石川水系だけでなく、校区内の住宅地にも
ふつうにいるトンボです。

明石川水系の本流や支流の他に泥の多い用水路など
汚いと思うような場所にもたくさん幼虫が生息しています。
よく似ているオオシオカラトンボとは、背中にトゲがないことで
見分けられます。(井上偉希)



シオカラトンボ幼虫



シオカラトンボ成虫オス♂

(絵・永田惇人)



田中川用水路各で捕まえたシオカラトンボの幼虫です。藻や泥の中にいました。



明石川中流の土手で休んでいたシオカラトンボのオスの成虫です。しばらくして飛んでいきました。

コオイムシ

子負虫

Diplohychus jopchicus

コオイムシ科 コオイムシ属

本州～九州

17mm～22mm

準絶滅危惧

明石川水系で卵を背中に背負っている姿を時々見ますが、卵を背負っているのはメスではなくオスです。メスがオスの背中に卵を産んでオスが大切に育てます。川や用水路の茂みをガサガサすると、成虫にそっくりな小さな幼虫がたくさんとれることがあります。最近には出会っています。(佐野こころ)



コオイムシ成虫♂(絵・永田亨人)



明石川で見つけた羽化したばかりのコオイムシの成虫です。まだ体が白くてやわらかいです。



玉津第一小学校で飼っていた卵を背負ったコオイムシです。産まれた幼虫は1匹ずつ紙コップに入れて育てました。



コオイムシが孵化しました。教室で孵化の様子も観察しました。



生まれてきた幼虫は共食をしないように1匹ずつ紙コップに入れて育てます。餌は生まれにばかりの小さなヌマエビです。



ヌマエビを食べて月脱皮を繰り返しながら少しずつ大きくなっています。



幼虫がある程度大きくなって、成虫をつかまえた元の茂みにリリースしました。たくさん増えてほいいます。

タイコウチ

太鼓打虫

Laccotrepes japonensis

タイコウチ科 タイコウチ属

本州～沖縄

3cm～3.8cm

太鼓を打つように前足を交互に動かすため、タイコウチと呼ばれています。呼吸管の長さは体長と同じで、水生昆虫やオタマジャクシや小魚などの体液を吸っています。

明月川では草の茂みにすんでいます。最近ではほとんど見なくなりました。(井上 倅希)

タイコウチ成虫

(絵・永田 惇人)



用水路で捕まえたタイコウチの成虫です。呼吸管が2つに別れています。



明月川中流の草の茂みで捕まえたタイコウチの成虫です。捕れるのはいつも水面近くや浅い所です。

ミズカマキリ

水 蝽 螂

Ranatra chinensis

タイコウチ科 ミズカマキリ属

日本全国

4 ~ 5 cm

神戸市要調査

田んぼや池沼に生息していますが、2022年10月に明石川
中流のわんどにいるのを捕まえました。

呼吸管の長さが体長と同じか体長より少し長いので、大きさ
以外でもヒメミズカマキリと見分けられます。

明石川ではヒメミズカマキリよりも個体数はかよりに少ないです
が、2023年1月には明石川支流の福知川でも捕まりました。

(西岡 龍介)



成虫

ミズカマキリ (絵・永田小亭人)



ミズカマキリが捕れた日の調査の様子です。
このすぐ近くのわんどで捕れました。



明石川で初めて捕れたミズカマキリです。
ヒメミズカマキリより大型で、呼吸管が体長と同じ
位か、それより少し長いです。

ヒメミズカマキリ

姫水螳螂

Ranatra unicolor

タイコウチ科 ミズカマキリ属

日本全国

2.5 cm ~ 3 cm

田んぼや池沼にいるミズカマキリと違ってヒメミズカマキリは、明石川の流れのある草の茂みにもいます。

明石川ではミズカマキリよりも個体数が多く、まとめて捕れ、呼吸管の長さが体長よりも短いです。(徳田梨花)



ヒメミズカマキリ成虫

(絵・永田 惇人)



用水路で捕まえたヒメミズカマキリの成虫。ミズカマキリよりも小さくて、呼吸管も短いです。



明石川中流の草の茂みで捕まえたヒメミズカマキリの成虫。1匹捕れたら、その近くを探すと何匹も捕れることが多いです。

チラカゲロウ

ちら蜉蝣

Isonychia japonica

チラカゲロウ科 チラカゲロウ属

日本全国

18mm

上流～中流にかけて広く分布していますが、明石川では上流の流れが早いところに生息しています。チラカゲロウは前足に長い毛が生えていて、この長い毛で流れてくる小さな餌をひっかけて食べています。

(西岡 龍之介)



チラカゲロウ幼虫 (絵・永田 惇人)



明石川支流の蛇谷川の源流付近で捕らえたチラカゲロウの幼虫です。明石川水系では源流～上流に生息していて中流ではほとんど見られません。



写真でも前足に長い毛が生えているのがよくわかります。流れの早い所でこの長い毛を使って流れてくる餌をひっかけて食べています。

シロタニガワカゲロウ

白谷川 蜉蝣

Ecdyonurus yoshidae

ヒラタカゲロウ科 タニガワカゲロウ属

本州、四国、九州

10~15 mm

明石川の上流~中流に生息し、平べったい形をして石の下にいて、石の表面を這うように動きます。石などに生える藻類を食べています。

季節や場所によって、たくさん捕れたり捕れなかつたりします。頭の先端の部分に白い小さな斑点が同じ間隔で4つ並んでいるのが特徴です。(弓削 朱花梨)



シロタニガワカゲロウ(絵・永田 惇人)



明石川中流の川の中の石をひっくり返して見つけたシロタニガワカゲロウの幼虫です。這うように動きます。



3本の長い尾があり、写真ではわかりにくいですが、頭の先端に白い斑点が4つ並んでいます。

ウデマガリコカゲロウ

腕曲がり小虫浮遊

Baetis flexifemora

コカゲロウ科 コカゲロウ属

北海道 本州、四国、九州

3~10 mm

幼虫は平地の上流~下流にかけて広く分布していますが、明石川水系では中流~下流や支流の櫛谷川や伊川などにも生息しています。

流れが早い浅い場所の石の下にたくさんいます。
(西岡龍介)



ウデマガリコカゲロウ幼虫 (絵・永田惇人)



明石川下流の石の下にいるのを捕まえたウデマガリコカゲロウの幼虫です。明石川本流の他に支流の櫛谷川や伊川にも生息しています。



3本の尾の中央の1本は両側の尾よりも短く、両側の尾の先には帯斑王があります。

サホコカゲロウ

佐保小蜉蝣

Baetis sahoensis

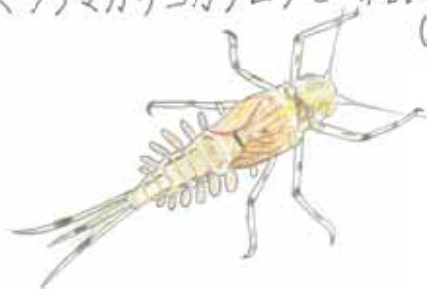
コカゲロウ科 コカゲロウ属

北海道、本州、四国、九州

7~8 mm

幼虫は平地の上流~中流にかけて広く分布していますが、明石川水系では中流~下流や支流の櫛谷川や伊川などにも生息しています。流れが早い浅い場所の石の下にいて、よくウテムガリコカゲロウと一緒にいます。

(駒板なみ)



サホコカゲロウ幼虫(絵・駒板なみ)



明石川中流の石の下にいるのを捕まえたサホコカゲロウの若齢幼虫です。明石川本流の他に支流の櫛谷川や伊川にも生息しています。



3本の尾の中央の1本は両側の尾よりもやや短く、まん中あたりに3本とも帯斑があります。

オトゲエラカゲロウ

大棘鰓浮蚪

Thraulys grandis

トビロカゲロウ科 トゲエラカゲロウ属

本州、四国、九州、沖縄

10mm **兵庫県要注目**
神戸市Bランク

丘陵地の落ち葉が溜まる流れのゆるやかな細流といった特殊な環境に生息するカゲロウで、明石川水系では支流の蛇谷川の源流で確認しました。
頭は四角形で体は平たくフサフサした魚鳃が特徴です。

(西岡 龍之介)



オトゲエラカゲロウ 幼虫

(絵・弓削 朱花梨)



ゆるやかな細流や水溜まりの落ち葉の中など特殊な環境で生息しているカゲロウです。



流れのすぐ側の水溜まりのような止水環境に住むので、酸素を取り込む効率を上げるために魚鳃が発達しています。

コガタシマトビケラ

小型綺飛虻

Cheumatopsyche brevilineata

シマトビケラ科 コガタシマトビケラ属

北海道～沖縄

7mm

幼虫は山地や平地の上流～下流にかけて広く分布して、明石川水系では源流～下流や支流の樋谷川や伊川などにも生息しています。

流れがある場所の石の下に巣を作ってたくさんいます。
(弓削 朱花梨)



幼虫



成虫

コガタシマトビケラ (絵・弓削 朱花梨)



明石川中流の石の下にいるのを捕まえた幼虫です。
時期や場所が合えば、とてもたくさん捕れます。



コガタシマトビケラの幼虫は、頭の前の部分が凹んでいるので、他のシマトビケラと見分けることができます。

ハイロゲンゴロウ

灰色源五郎

Eretes sticticus

ゲンゴロウ科 ハイロゲンゴロウ属

北海道～南西諸島

1.2～1.4cm

明石川水系では、川や田んぼや水路などにおいて、時には雨でできた水たまりでも見かけることがあります。

ハイロゲンゴロウは、つかまえて水から出すと、すぐに飛び出すことができ、手のひらに乗せて「ブブブ」と震動を感じたら、それが飛び立つ合図です。(北井蒼大)



ハイロゲンゴロウの成虫 (絵・弓削朱花梨)



田んぼでつかまえたハイロゲンゴロウの成虫。田んぼやプールなどの開けた場所にも多く見られます。



明石川中流の茂みでつかまえたハイロゲンゴロウの成虫。1匹とれると次々に見つかることが多いです。

コガムシ

小牙虫

Hydrochara affinis

ガムシ科 コガムシ属

北海道～沖縄県

1.6～1.8 cm

情報不足

幼虫は肉食で流れのない田んぼや水路にいて、成虫は主に草食で田んぼや水路の他に明石川水系の流れの弱い川の淀みの草が茂った場所にあります。生息数はカムシよりは多いですがヒメガムシやママガムシよりも少ないです。(比井蒼大)



コガムシの幼虫

コガムシの成虫

(絵・弓削 朱花梨)



明石川中流近くの田植えが終わった田んぼにいたコガムシの幼虫。たくさんいました。



明石川中流の茂みにいたコガムシの成虫。足が赤いです。

ミナミタガイ

南田貝

Beringiana fukuharai

イシガイ科 ドブガイ属

西日本各地

10 cm

神戸市Cランク

明石川では、本流や支流ではなく、明石川用水路や田中川用水路、平野大池用水路など、明石川水系のさまざまな場所の用水路に生息しています。

また、ミナミタガイが生息しているほとんどの用水路にはタイリクバラタナゴも生息しています。

とれる貝は成貝が多く、幼貝はほとんど見つかありません。

(徳田梨花)



ミナミタガイ (絵、徳田 梨花)



田中川用水路でとったミナミタガイの成貝。ドブガイの仲間で、名前のとおりドブの中にいました。



同じ場所でも別の日にとった別個体のミナミタガイです。右上の小さな貝はマツカサガイです。

イシガイ

石貝

Nodularia douglasiae

イシガイ科 イシガイ属

本州、四国、九州

9cm

兵庫県Cランク
神戸市Bランク

明石川では、中流で合流している明石川用水路のみで生息を確認しています。その場所にはオイカワやカマツカやヨシボリなどが生息しています。採れる貝は成貝もいますが大半は幼貝です。2021年の調査では幼貝～成貝を合わせて153匹とれましたが2022年の調査では567匹に増えています。
(北井 蒼大)



イシガイ(絵・北井 蒼大)



明石川中流の明石川用水路でとれたイシガイの幼貝。幼貝がとてもたくさんいました。



イシガイの未成貝～成貝。明石川用水路では、とても増えています。

マツカサガイ

松笠貝

Pronodularia japonensis

イシガイ科 マツカサガイ属

北海道、本州、四国、九州

6cm

準絶滅危惧

明石川では、支流の田中川の用水路に点在して生息しています。田中川用水路には ミナメダカやタイリクバラタナゴが多く生息し、ヤリタナゴも石室認しています。とれる貝は成貝が多く、幼貝はあまりいません。生息している場所が少しずつ減っています。(弓削 朱花梨)



マツカサガイ (絵・弓削 朱花梨)



田中川用水路各点にてマツカサガイの未成貝～成貝。幼貝が少なく心配です。



田中川用水路でも場所によっては幼貝もとれる所があります。

マシジミ

真 蜆

Corbicula leana

シジミ科 シジミ属

本州～九州

絶滅危惧Ⅱ類 ^{3cm} 兵庫県要注目
神戸市Cランク

明石川では、中流で合流しているイシガイのいる明石川用水路で生息を確認しています。

外来種のタイワンシジミは明石川のいろんな場所で見つかっていますが、マシジミは今のところこの場所だけです。

2021年の調査では成貝が4匹とれましたが、2022年の調査では幼貝～成貝を合わせて377匹とれました。

(西岡 龍之介)



マシジミ (絵: 人見 歩)



明石川中流の明石川用水路各でとったマシジミの幼貝。石の中にもいました。



マシジミの未成貝～成貝。明石川用水路で増えています。

タイワンシジミ

台湾舘

Corbicula fluminea

シジミ科 シジミ属

本州～九州

3cm

総合対策外来種

兵庫県警戒種

その他の総合対策外来種

神戸版ブラックリスト

明石川では、本流や支流、用水路など、様々な場所に生息していますが、特に小さな用水路に多いです。底に泥がたまっている、あまりきれいではない用水路にシジミ貝が大量にいる場合は、タイワンシジミの可能性がとても高いです。まずいと言われていて、ゆでたものを味つけせずに食べると少し泥臭いですが、甘辛い佃煮にするととてもおいしいです。



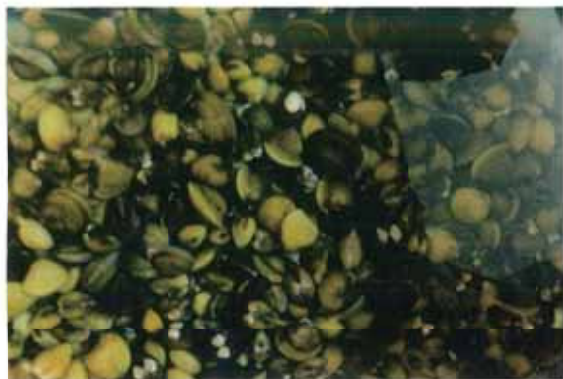
タイワンシジミ (絵・中村 颯希)



明石川水系の平野大池用水路で二枚貝の調査をしているところです。



平野大池用水路で、たくさんタイワンシジミが見つかっています。



用水路で大量にとれたタイワンシジミ。汁から
鳥卵除をかねてシジミご飯を作ります。



タイワンシジミを30分以上ゆでて、貝から身を取り
出します。



取り出した身を甘辛く煮て、タイワンシジミの佃煮を
作ります。



炊きあがったご飯にタイワンシジミの佃煮を混ぜ
合わせるとシジミご飯のできあがりです。
タイワンシジミもとてもおいしいです。

アカエイ

赤鱔

Dasyatis akajei

アカエイ科 アカエイ属

日本各地沿岸

100cm

成魚は砂や泥の海底に生息していますが、幼魚は砂浜近くのとても浅い海や河口でも見られ、明石川や福田川の河口でもよく見られます。

尻尾のトゲには強い毒がありますが、身は食用になります。

卵胎性といって卵ではなく、そのまま幼魚を産みます。

(西岡 龍之介)



アカエイ (絵・弓削 朱花梨)



明石川河口で釣りをしている時に現れたアカエイの幼魚です。



釣りをしている足元をゆうゆうと泳いで行きました。

イセゴイ

伊勢鯉

Megalops cyprinoides

イセゴイ科 イセゴイ属

太平洋の暖海沿岸地域

1m

別名パシフィックターポンとも呼ばれ、小魚や甲殻類を食べる肉食性の海水魚で、幼魚は汽水域～淡水域に進入します。イセゴイは、ニホンウナギと同じようにレプトケファルス幼生から幼魚になり、そのレプトケファルス幼生を2022年の11月に干潮時の明石川下流～河口の草の茂みで捕まえました。

(西岡 龍介)



イセゴイ

イセゴイのレプトケファルス幼生

(絵・弓削 朱花梨)



干潮の明石川下流～河口のようすです。この場所でイセゴイのレプトケファルス幼生を捕まえました。



上から見たイセゴイのレプトケファルス幼生です。最初はシロウオかな？と思っていました。

ニホンウナギ

日本鰻

Anguila japonica

ウナギ科 ウナギ属

北海道より南

1m

IUCN絶滅危惧IB類
絶滅危惧IB類

兵庫県Cランク

神戸市Cランク

明石川の上流～中流は数が少ないけれど成魚が多く、下流～河口は数が多いけれど成魚が少ないです。つかまえられると後ろに後退し、尾びれから逃げようとします。夜行性で昼間は大きめの石の下や砂利の中にかくれています。

生命力は強い魚ですが、おなかが弱点で、おなかを少しでも強くにぎってしまうと弱って死んでしまうので、取り扱いには注意が必要です。



ニホンウナギ (絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の伊川の岩がざからあらわれたニホンウナギの成魚です。



明石川中流でつかまえたニホンウナギの幼魚です。石の下にいました。



シラスウナギからクロコにかわったばかりのニホンウナギの幼魚。下流～河口にたくさんいます。



明石川下流にいたニホンウナギの幼魚。明石川の下流には、このサイズの幼魚がたくさんいます。



明石川河口でつかまえたニホンウナギの未成魚。大きな石の下にいました。



玉津第一小学校の水槽で飼っていたニホンウナギの成魚。餌のヌマエビを食べて、おなかがいっぱいになると、上を向いておなかを見せて寝ていました。

アユ

鮎

Plecoglossus altivelis

アユ科 アユ属

北海道西部より南の日本各地

15cm~30cm

神戸市シランク

川の水温が高くなってくる3~6月頃、明石川下流にも遡ってきます。岩や石の表面に付いている藻やこけを食べますが水生昆虫なども食べます。群れをつくるアユと、群れをつくらず単独でなわばりを持つなわばりアユの2種類がいます。なわばりアユは、他のアユが自分のなわばりに入ってくると激しく攻撃します。(弓削朱花梨)



アユ(絵・弓削朱花梨)



明石川下流で捕まえたアユの未成魚です。日本らしいおくゆかしくて控え目な美しさがあります。



高知県石形修の時に仁淀川の河原に取り残されたアユの「はみあし」の石を見つけました。この石を見ただけで仁淀川にはたくさんアユがいることがわかります。



住吉川の春のようす。たくさんのアユの幼魚が群れをつくっています。



都賀川の晩秋のようす。婚姻色のアユの成魚の群れがいました。



住吉川の秋のようす。アユの成魚が群れで石に生えた藻類を食べています。住吉川のアユは、あまり「なわばり」をもちません。



アユはオスメスヒモに産卵期には婚姻色があらわれて、体が黒くなり、ひれやおなかが大だい色になります。



揖保川漁協の方にアユの友釣りを教えていただきました。



これが天然のアユです。メンバーが2匹釣りました。



おとりアユになわぼりアユが かかりました。とても引きが強かったです。



上の2匹は 天然のなわぼりアユで、下の1匹は 養殖のおとりアユです。天然のアユの方がスマートできれいです。



鮎種苗センターのセンター長さんがアユの採卵の見本を見せてくださって私たちが挑戦します。



センター長さんや先輩メンバーにアドバイスをしてもらいながら、メンバー全員が採卵を体験しました。



経島食ゆたかなメンバーから始めます。採卵の手順を覚えようと、真剣な表情のほかのメンバーたち。



採った卵と精子は、鳥のはねで混ぜ合わせます。いろいろ試して、柔らかくて水をはじく鳥のはねが一番よかったので使っているそうです。



精子と混ぜ合わせた卵を水中に落とすし初めて受精します。受精卵を着卵材ですくうと、たくさんの卵がくっついてきました。



着卵材ごとアユの受精卵をいただいて学校で育てました。アユの卵はキラキラしていて、とてもきれいです。



受精してから10日後に、たくさんのアユの仔魚が生まれて、あの受精からこんなにたくさんの小さな命が生まれたことに感動しました。



生まれて数日たて、おなかに卵黄がなくなってから放流します。夜に海に下るので、夕方暗くなりかけた頃に行きます。また明石川に帰ってきてほしいです。

カマツカ

鎌柄

Pseudogobio esocinus esocinus

コイ科 カマツカ亜科 カマツカ属

岩手県、山形県より南の本州、四国、九州、吉岐

20 cm

流れに変化がある場所の川底に留まった砂の上や砂の中にあることが多いです。
感じがニオイに似ていて、口は砂の中の小さな生き物を食べやすいように下を向いていて、口の先を突き出して砂ごと吸い込むようにして食べます。
川底が砂から泥に変わるといふようになります。
最近では増えています。(人見歩)



カマツカ (絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の榎谷川の砂の中にいるのを捕まえました。
明石川水系で増えています。



明石川中流の砂の中をタモ網ですくって捕まえたカマツカの成魚。砂の中には幼魚～成魚まで、たくさんまけた。

コウライモロコ

高麗諸子

Squalidus chankaensis subsp.

コイ科 カマツカ亜科 スゴモロコ属

中部 本州瀬戸内側 四国北東部

神戸市Cランク

9~10 cm

明石川の中流～下流に生息しています。以前はほとんど捕れていませんでしたが、2015年の夏ごろから明石川下流で成魚が、2015年の秋には支流の伊川で幼魚が捕れるようになり、今では中流にもたくさん生息しています。

明石川中流のコウライモロコは、夏に数が減って、冬が近づいて寒くなると数が増えます。

最近では中流～下流でコウライモロコの幼魚の群れも見られるようになりました。(弓削朱花梨)



コウライモロコ (絵: 弓削朱花梨)



明石川下流でつかまえたコウライモロコの成魚。
本流の淀みにいました。



明石川中流でつかまえたコウライモロコの幼魚。
この幼魚も本流の淀みにたくさんいました。



明石川下流でつかまえたコウライモロコの成魚。
背中に不規則な斑点があります。



明石川下流の水路でつかまえたコウライモロコの
成魚。体高が高い感じです。



同じモロコでもコウライモロコは カマツカの中間
です。金属的な感じがよく似ています。



冬の明石川中流で網でつかまえたコウライモロコの
幼魚たち。たくさん増えています。

コウライニゴイ

高麗似鯉

Hemibarbus labeo

コイ科 カマツカ亜科 ニゴイ属

中部地方～山陽地方 四国

50cm

コイよりも細長くて、目をキョロキョロ動かすことができるので、時にはウインクをしているように見えることがあります。口が下向きについて砂底の生き物を食べますが、大きくなるとオオクチバスのようにオイカワなどを追いかけて食べます。以前は明石川中流～下流に生息していたが、今は中流ではほとんど見なくなりました。初夏に下流で幼魚の群れが見られます。



コウライニゴイ (絵: 弓削 朱花梨)



明石川中流でつかまえたコウライニゴイの幼魚。最近では中流ではほとんど見なくなりました。



玉津第一小学校の水そうで飼っていたコウライニゴイ。ヌマエビをあげると、とてもよく食べていました。

コイ

鯉

Cyprinus carpio

コイ科 コイ亜科 コイ属

日本全国

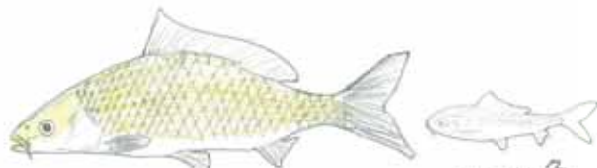
80cm

外来種

兵庫県注意種

アクアリウム要注意種(オリジナル名称)

昔の人は川で育ったコイを捕ってふつうに食べていたので、コイの成魚が増えすぎることなく小魚が多く多様性が保たれていました。しかし今は誰も捕って食べなくなり成魚が増えています。コイは雑食で成魚になるとオオクチバスやブルーギルと同じように魚の卵や小魚や水生昆虫を食べてしまうので成魚だけを駆除しておいしくなっています。からあげにするとあっさりとしていてとてもおいしく、コイの卵の甘辛煮も珍味としてもおいしく、



コイ成魚

コイ幼魚

(絵・弓削 朱花梨)



産卵のために明石川支流の伊川の浅瀬をよるコイの成魚です。



明石川中流で捕まえたコイの幼魚です。フナ類に似ていますが、口先の他に背ひれの形や、うろこの黒いちとりなどでも見分けられます。



日月石川中流でコイの成魚の駆除活動です。
両方から追い込んで協力して捕まえます。



明石川支流の櫛谷川で産卵期に群れを追い
込んで成魚を捕まえました。



コイのセカリ身のからあげです。あっさりしていて
臭みもなく、とてもおいしいです。



コイの卵のどんぶりです。甘辛く煮たコイの白卵
をご飯反にのせてマヨネーズをかけたら完成です。
たらこみたくてとてもおいしいです。

ゲンゴロウブナ

源五郎魚

Carassius cuvieri

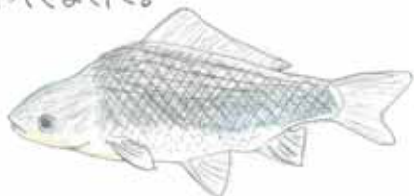
コイ科 コイ亜科 ブナ属

本来は琵琶湖固有種

40 cm

国内外来種

ギンブナと似ていますが、ギンブナよりも大きくなり体高が高く目の位置がギンブナより低く下を向いています。明石川ではギンブナに比べて下流に多く生息しています。元々は明石川水系にいなかった国内外来種なので、ギンブナを守るために馬区除をしていますが、からあげにすると香ばしい風味がめって、コイよりもおいしいです。最近では減ってきました。



ゲンゴロウブナ (絵・弓削朱花梨)



明石川下流で捕まえたゲンゴロウブナの幼魚です。下流や用水路に多いです。



明石川下流の伊川で捕まえたゲンゴロウブナの成魚です。国内外来種なので馬区除をしておいくたにいます。

ギンブナ

銀魚付

Carassius auratus langsdorfii

コイ科 コイ亜科 フナ属

日本全国

神戸市Cランク

30cm

明石川の中流～下流や支流や用水路 明石川水系の池など広く生息し、日本では北海道から沖縄まで全国に広く分布しています。

明石川には、国内外来種のゲンゴロウブナと神戸市絶滅危惧Cランクのギンブナの2種類のフナが生息しています。

ギンブナは、メスしかいないと言われています。(亘 優愛)



ギンブナ(絵・弓削朱花梨)



明石川中流で捕まえたギンブナの幼魚です。ゲンゴロウブナより体高が低いです。



平野大池用水路で捕まえたギンブナの幼魚です。平野大池用水路ではギンブナが豊富にきました。

ヤリタナゴ

槍鰯

Tanakia lanceolata

コイ科 タナゴ亜科 アグラボテ属

本州、四国、九州

準絶滅危惧

兵庫県Bランク

神戸市Bランク

9cm

明石川では5年以上確認がなく、絶滅したのかと思われていましたが、数年前に支流の田中川用水路で神戸市環境局と協働でアカミガメを防除するためのしかけのカゴに、ヤリタナゴのオスの成魚が入っていました。用水路を調査するとミナミタガイやマツカサガイも見つかりました。また、この場所にはタイリクバラタナゴもたくさんいるので、競争を避けるためにタイリクバラタナゴの駆除をしています。(西岡龍介)



(絵 弓削 朱花梨)



田中川の用水路で、カメ捕獲用のしかけのカゴに入っていたヤリタナゴのオスの成魚です。



観察ケースに入れて観察した用水路のヤリタナゴです。用水路の水がにごっていて見えにくいです。

タイリクバラタナゴ

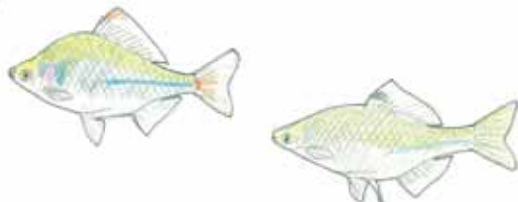
大陸薔薇鰻

Rhadeus ocellatus ocellatus
コイ科 タナゴ魚科 バラタナゴ属

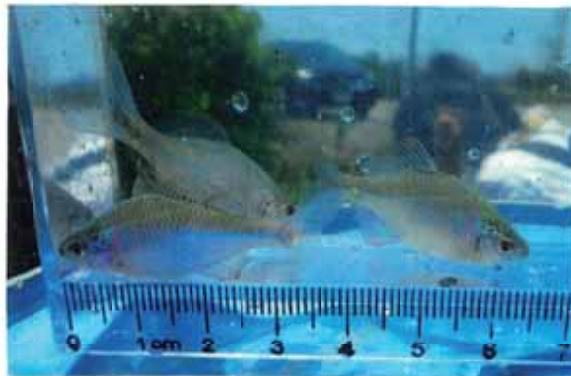
日本全国

総合対策外来種 兵庫県注意種
重点対策外来種 神戸版ブラックリスト
7cm 外来生物種

明石川の本流にはほとんどいませんが、明石川につながっている池や用水路で見られます。特にミナミガイやマツカサガイなどの二枚貝がいる支流の田中川用水路では、とても増えています。中国原産のタイリクバラタナゴは、日本原産のニッポンバラタナゴと交雑することで、ニッポンバラタナゴを絶滅の危機に追い込んでいます。(徳田桜花)



タイリクバラタナゴ(絵・弓削朱花梨)



田中川用水路で捕まえたタイリクバラタナゴの成魚です。大型の二枚貝のいるところには、必ずと言っていいくらいタイリクバラタナゴがいます。



タイリクバラタナゴは、とても飼いやすく二枚貝と一緒に入れると簡単に産卵シーンが観察できます。



田中川用水路では多い時はこれだけたくさんのタイリクバラタナゴの幼魚〜成魚が捕れます。



田中川用水路にはタイリクバラタナゴやヤリタナゴが産卵するミナミタカイやマツカサカイも生息しています。



1ヶ月以上泥抜きをしてタイリクバラタナゴを田煮にしました。内臓は苦くなく骨もやわらかくておいしかったです。



増水後の明石川中流で捕れた個体です。田中川用水路のタイリクバラタナゴとは感じが少し違っていました。

オイカワ

追河

Opsariichthys platypus

コイ科 クセノキブリス亜科 ハス属

本州 四国・九州

15cm

明石川の橋の上から見ると、川底の石に生えたコケを身をひる返して食べ、キラキラと光る様子が見られます。昆虫やエビも大好きで、オスの婚姻色はとても美しく、明石川で一番多い魚で、シンボルフィッシュになっています。群れをつくり、稚魚や幼魚は特に多く、とても増えています。

(佐野ころ)

オイカワ オス♂



オイカワ メス♀



オイカワ 幼魚



(絵・弓削 朱花梨)



玉津第一小学校で飼っていた、少し婚姻色が出ているオスの成魚です。



明石川中流でつかまえた成魚です。明石川で一番多い魚です。



オイカワの幼魚の中にあるミナミダカの成魚です。(指先)
オイカワの幼魚をメダカだと思っている人は意外に多いです。



田んぼにつながっている用水路でつかまえた
オイカワの変異の幼魚です。用水路で見つかります。



冬の明石川水系でつかまえたオイカワの幼魚～未成魚です。
まとまっているので、ひとすくいてたくさんとれます。



明石川支流の田中川で釣りでつかまえたオイカワ
のオスの婚姻色の成魚です。とてもきれいです。

カワムツ

川 鯉

Nipponocypris temminckii

コイ科 クセキプリス垂科 カワムツ属

静岡県より西の本州、四国、九州

15 cm

アマムツととてもよく似ていますが、アマムツよりも口の先が丸くなっていて口の黄色が強いです。アマムツと同じく流れがゆるやかで草が多く茂っている場所を好みますが、生息域はアユがすんでいるような川の上流～中流で、オイカワやアマムツよりも水が冷たく、きれいな所を好みます。

明石川では上流の押部谷付近にすんでいます。

2021年7月の大雨の後に、私たちの校区内の明石川中流で初めて捕れました。(人見歩)

カワムツメス

カワムツオス



絵(弓削朱花梨)



明石川上流の支流の蛇谷川で捕まえたカワムツの幼魚です。たくさんいました。



明石川中流で捕まえたカワムツの成魚です。いつもは上流にいますが、大雨の増水の後に流されてきたのを捕まえました。

ヌマムツ

沼 鮭

Nipponocypris sieboldii

コイ科 クセノキアリス亜科 カワムツ属

静岡県より西の本州、四国、九州

15 cm

カワムツととてもよく似ていますが、カワムツよりも口の先がとがっていて、ひれの赤みが強いです。婚姻色のオスはきれいです。

明石川の本流よりも流れが弱くて草が多く茂っている支流の福知川や櫛谷川や田中川、用水路などに生息しています。福知川のように増えている場所もあれば、田中川用水路のように減っている場所もあります。

(大浦 結那)



ヌマムツ オス♂



ヌマムツ メス♀



ヌマムツ 幼魚

(絵: 弓削 朱花梨)



明石川支流の櫛谷川で捕まえた婚姻色のヌマムツのオスの成魚です。



ヌマムツの成魚です。田中川で生きたミミズを餌にして釣りで捕まえました。



福知川で捕まえたスラムツの若い成魚です。
明石川支流の福知川にはたくさん生息しています。



田中川用水路で捕まえた背骨が曲がった幼魚です。
変異個体は用水路に多いです。



明石川中流で捕まえたオイカワとスラムツの幼魚
です。左がオイカワで右がスラムツです。



田中川用水路で捕まえたスラムツの老成魚です。
少し弱っていて簡単に捕れました。

タモロコ

田 諸子

Gnathopogon elongatus elongatus

コイ科 バルブス亜科 タモロコ属

関東より西の本州、四国

8~10cm

タモロコは、尾びれのつけ根に黒い斑点がありますが、これは幼魚の時からはっきりわかります。採捕する時は茂みをガサガサして捕まえますが、他の遊泳魚と違って、石の下にかくれていることも多いです。よく群れを作り、ホンモロコに比べて胴が太くて短い体つきをしています。明石川中流にいますが、支流や用水路にも多く生息しています。

(人見秀)



タモロコ(絵: 引削 朱花梨)



玉津第一小学校で飼っていたタモロコです。粒エサの他にヌマエビもあげるとよく食べていました。



明石川中流で捕まえたタモロコの成魚です。茂みだけでなく、石の下にもかくれています。



明石川でつかまえたタモロコの幼魚です。
小さくても尾びれのつけ根の黒い点がわかります。



タモロコは群れになつているので、
君羊れを見つけてつかまえれば、
1度にたくさんとることができます。



明石川中流の「わんど」でつかまえた成魚のメス。
産卵前で卵をいっぱい持っています。



田中川用水路でつかまえたタモロコです。
とろの中にまぐっていました。

モツゴ

持子 脂魚

Pseudorasbora parva

コイ科 ヒガイ亜科 モツゴ属

関東より西の本州、四国、九州

8cm

脂がにじんだようにキラキラと光り、見る角度によって体の色が虹色に変化します。黒い縦糸糸が体側にあるタイプと、ないタイプの2種類があって、黒い縦糸糸があるタイプはタモロコとよく似ていますが、ヒゲがないことや、口が細く上の方にあること、尾ひれのつけ根に黒い点がないことなどで見分けることができます。(徳田梨花)



モツゴ (絵・弓削 朱花梨)



明石川中流で捕まえたモツゴの成魚です。脂がにじんでいるように見えることから脂魚(モツゴ)という名前がついたという説もあります。



こちらも明石川中流で捕まえて観察ケースに入れたモツゴの成魚です。明石川水系では用水路にも多く生息しています。

チュウガタスジシマドジョウ

中型筋縞泥鰌

Cobitis striata striata

ドジョウ科 シマドジョウ亜科 シマドジョウ属

本州、四国の瀬戸内海側

10cm

絶滅危惧II類 神戸市Bランク

感じはシマドジョウに似ていますが、模様が点ではなく線なので見分けることができます。ただし幼魚は点です。よく砂にもぐり、きれいな流れのある水と、きれいな石が大好きで、水が汚れたり泥が溜まるとすぐにいなくなります。増えたり減ったりを繰り返しています。(井上 倅希)



チュウガタスジシマドジョウ (絵・弓削 朱花梨)



明石川中流の流れの弱い石少底で捕まえました。捕れる時はこんなに捕れます。



10年位前にスジシマドジョウ中型種からチュウガタスジシマドジョウに新しく分類されました。

ドジョウ

泥鰌

Misgurnus anguillicaudatus

ドジョウ科 シマドジョウ亜科 ドジョウ属

日本全国

準絶滅危惧 15cm 兵庫県要注目
神戸市Cランク

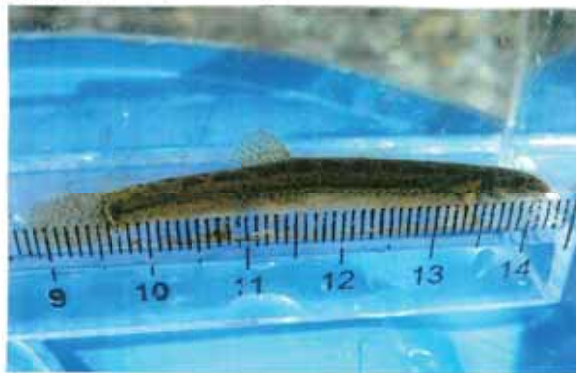
明石川中流にも生息していますが、本流よりも支流の小さな川や用水路など、ミナメダカや二枚貝のいるところに多いです。流れがあって、きれいな水や砂を好む。チュウガタスジシマドジョウと違って、水はあまりきれいではなく、泥の多いプランクトンがたくさんいるような所に生息しています。最近では明石川の本流にも増えました。(大浦結那)



ドジョウ (絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の田中川の用水路でつかまえたドジョウの成魚のペアです。二枚貝やミナメダカがたくさんいました。



明石川中流の砂の中をさぐってつかまえたドジョウです。明石川の本流でもとれることが多くなりました。

ロングズガー

Lepisosteus osseus

ガー科 レピステウス属
本来はカナダ～メキシコ

特定外来生物 60～120 cm

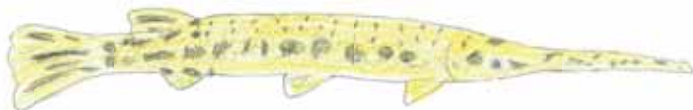
総合対策外来種

その他の定着予防外来種

2012年頃に当時のアクアリウムメンバーが明石川下流で合流している伊川でタモ網で捕まえたものです。

「木の枝が動いている!!」と思ってタモ網で捕ったらロングズガーだったそうです。

捕まえた時には50cmもあって、多分食いきれなくなった人が逃げたものだと思います。最後まで責任を持って飼育して欲いです。(永田 惇人)



ロングズガー(絵・弓削朱花梨)



明石川支流の伊川で捕まえたロングズガーです。こんな魚が明石川水利にいたとは驚きです。



水面で空気呼吸をするロングズガーです。タイワンドジョウやカムルチーと同じように空気呼吸ができるので、水中の酸素が少なくても生きていきます。

タイワンドジョウ

台湾泥鰌

Channa maculata

タイワンドジョウ科 タイワンドジョウ属

和歌山県、兵庫県、香川県、沖縄県

30~60 cm

外来種

タイワンドジョウは、よく似たカムルチーよりも環境の変化に弱く、全国的にはカムルチーの方が多いますが、明石川水系ではカムルチーよりもタイワンドジョウの方が多です。以前は中流~下流にかけて多く生息していましたが、今は下流に少いる程度に減ってきています。
(徳田 桜花)



タイワンドジョウ (絵: 弓削 朱花梨)



以前に明石川中流で捕まえたタイワンドジョウの幼魚です。土堰の上の流れのない茂みにたくさんいました。



平野大池の土堰の工事で水を抜いた時に捕まえたタイワンドジョウの成魚です。からあげにしておいしくいただきました。

カムルチー

Channa argus

タイワンドジョウ科 タイワンドジョウ属
北海道、本州、四国、九州
80 cm

外来種

明石川水系では数が少なく、2019年3月に初めて捕獲しました。平野大池とそれにつながる用水路を中心に少し生息しています。

タイワンドジョウは、頭から尾びれまで小さな斑点がならんで線のように見えますが、カムルチーは斑点が大きくて所々で背中からお腹にかけて斑点がフワワしているように見えます。



カムルチー (絵: 弓削 朱花梨)



平野大池の用水路でつかまえたカムルチーの未成年。藻の中にかくれていました。



スネークヘッドという別名のとおり頭や顔の感じや体の模様がヘビによく似ています。

スズキ

魚鱚

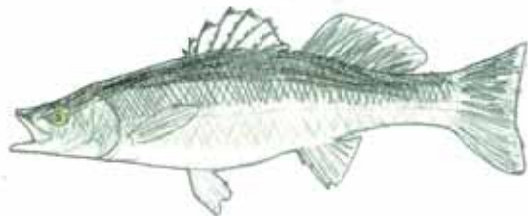
Lateolabrax japonicus

スズキ科 スズキ属

日本各地

100cm

海の魚ですが、幼魚の時には川の水温が高い初夏～秋の間は川の下流に来て、カムにエビや魚や小さな生き物を食べて大きくなります。明石川でも夏の間は下流でよく姿を見せ、時には下流の用水路にも進入します。海にいるオオクチバスという意味で「シーバス」とも呼ばれています。(中村 颯希)



スズキ(絵 引削 朱花梨)



明石川下流の汽水域でつかまえたスズキの幼魚です。餌を食べていないのが、やせています。



明石川河口で釣りによってつかまえたセイゴと呼ばれるスズキの幼魚。

オオクチバス

大口ばす

Micropterus salmoides salmoides

サンフィッシュ科オオクチバス属

放流により日本全国

50~60 cm

特定外来生物

兵庫県警戒種

総合対策外来種

神戸版ブラックリスト

緊急対策外来種

外来生物種

明石川はオオクチバスもブルーギルも多くいましたが、外来種の駆除を続けた結果、共に減りました。しかし、白甲がブルーギルに食べられなくなったため、一時的にオオクチバスが増えた時もありましたが、現在は減っています。玉-アクアリウムは、駆除をしたオオクチバスやブルーギルはおいしくいただいたり、X田の肥料にしています。(中初音)



オオクチバス (絵 弓削 朱花梨)



環境省と農水省に許可をもらって玉津第一小学校の水そうで飼っている2代目のオオクチバス。みんなに外来種を知ってもらうために飼っています。



明石川支流の福知川の源流の1つの水がとでもきれいな場所ではたオオクチバスの未成魚です。ヘビトンボやカワケラといまいた。



明石川中流でつかまえたオオクチバスの今年生まれた幼魚。大雨の後、上流から流れてきます。



明石川支流の田中川は3面コンクリートで川に降りられないので釣りによる駆除をしています。



オオクチバスの幼魚のからあげ。内臓も骨も丸ごと食べられ、とてもおいしいです。(左下の1匹はブルーギルです)



田中川で釣りによってつかまえたオオクチバスの未成魚。生きたミズを餌にして、幼魚〜成魚に近いサイズの未成魚までよく釣れます。

ブルーギル

ぶるーぎる

Lepomis macrochirus
サンフィッシュ科 ブルーギル属
放流により日本全国

25 cm

特定外来生物
総合対策外来種
緊急対策外来種

兵庫県警戒種
神戸版ブラックリスト
外来生物種

前は明石川水系でもたくさんいましたが馬区除をしているので今は少なくなっています。淡水魚ですが海水～汽水の明石川河口で釣りをしているブルーギルが釣れることがあり、汽水にも適応していると思われます。もとは上皇さまが食用魚として持ち帰ったものなので、自身ごともおいしいです。ブルーギルとは「青いえら」という意味です。



ブルーギル(絵:弓削 朱花梨)



環境省と農水省に許可をもらって玉津第一小学校の水そうで飼っている2代目のブルーギル。みんなに外来種を知ってもらうために飼っています。



明石川支流の樋谷川の用水路でつかまえたブルーギルの成魚。用水路にもこんなに大きな成魚がいました。



明石川下流でつかまえたブルーギルの幼魚。
下流の用水路に大量にいたのが流されてきていま
した。



明石川支流の田中川は3面コンクリートで川に
降りられないので釣りによる鳥駆除をしています。



ブルーギルの成魚の切り身のからあげ。骨もなく
あっさりとした白身でとてもおいしいです。



田中川で釣りによってつかまえたブルーギルの未成魚。
生きたミズを餌にして、幼魚～成魚に近いサイズ
の未成魚までよく釣れます。

クロホシフエダイ

黒星笛鯛

Lutjanus russellii

フエダイ科 フエダイ属

神奈川県、相模湾より南

30~50cm

インドから西太平洋の熱帯域の沿岸に生息する海水魚ですが、幼魚は汽水域や淡水域にもいます。体側の後方に黒斑があり、おいしい魚です。明石川河口の汽水域で釣りにより捕まえました。
(中村 楓希)



クロホシフエダイ(絵、弓削 朱花梨)



明石川河口で釣れたクロホシフエダイの幼魚です。真上から見ても黒斑が目立ちます。



横から見ると穴があいているような黒くて大きな模様が印象的です。

クロホシマンジュウダイ

黒星饅頭鯛

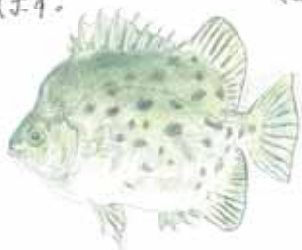
Scatophagus argus

クロホシマンジュウダイ科クロホシマンジュウダイ属

和歌山県より南～インド太平洋
インド洋や太平洋の熱帯域

35 cm

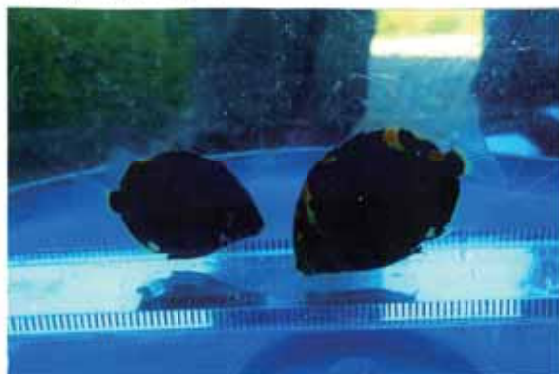
幼魚は一部が赤い色をしていますが、成長するとなくなります。内湾や汽水域に生息していますが、幼魚は淡水域まで進入します。成魚は食用魚として、幼魚は学名のスキャットファークラスという名前で観賞魚として売られています。ほぼ毎年、明石川下流～河口で秋～冬にかけて幼魚が捕れます。
(西岡 龍之介)



クロホシマンジュウダイ (絵: 永田 惇人)



明石川下流の汽水域で干潮時に分断された溜まりで捕まえたクロホシマンジュウダイの幼魚たちです。同じ場所にも匹いました。



明石川下流の淡水域で草の茂みをガサガサして捕まえたクロホシマンジュウダイの幼魚です。

シロギス

白鱈

Sillago japonica

キス科 キス属

北海道南部より南

30cm

海の砂地や砂浜の続きなど、きれいな砂底がある環境が大好きです。

明石川河口の川底にもきれいな砂が多く、シロギスの生息を確認しています。

明石川河口で釣れたシロギスを先輩が天ぷらにして食べたそうで、とてもおいしかったそうです。(井上 幸希)



シロギス(絵・弓削朱花梨)



明石川河口で釣り上げたシロギスの成魚です。明石川河口にもシロギスがいます。



シロギスは同じ場所に生息しているマハゼと姿や形や透明感がよく似ています。どちらもきれいな砂底が大好きです。

コトヒキ

琴弾

Terapon jarbua

シマイサキ科 コトヒキ属

本州中部より南

30 cm

体側に曲がっている3本の縦帯線があり、下流～河口の干潮の溜まりに小さな幼魚が群れていることがあります。

明石川下流の淡水域や明石川下流で合流している伊川の淡水域まで遡ります。

えらぶたに刺があり、さわると痛いです。(鈴木詩)



コトヒキ (絵: 弓削 朱花梨)



明石川河口で釣れたコトヒキの幼魚です。時々小さく「グーグー」と鳴きます。



真上から見たコトヒキの幼魚です。この身の厚さから、水面観察でもコトヒキはすぐにわかります。

シマイサキ

縞伊佐幾

Phycopelates oxyrhynchus

シマイサキ科 シマイサキ属

本州より南

30 cm

体側に4本の黒い線があり、口元がとがっています。
内湾や河口に生息していて、幼魚は初夏～日没秋にかけて
明石川下流の淡水域まで遡ります。

川底の石のまわりやタイヤや草の茂みにかかっていることが
多く、1匹捕れると近くに仲間がいて、次々に捕れます。

(西岡 龍之介)



幼魚

成魚



シマイサキ(絵:弓削朱花梨)



明石川下流の淡水域で捕れたシマイサキの幼魚です。
体側に4本の黒い縦線があり、上から3本目の線
は口から目を通して、尾びれのつけ根まであります。



シマイサキの成魚です。食用魚として売られています。

クロダイ

黒鯛

Acanthopagrus schlegelii

タイ科 クロダイ属

北海道～九州

50cm

海～河口に生息していますが、川の水温が高くなる初夏～晩秋は明石川下流でも幼魚や成魚をよく見ます。甲殻類や貝類の他に藻類も食べる雑食です。タモ網で捕れた時や釣れた時は、その瞬発力の強さに驚きます。よく似たキチヌと違って、春～初夏に産卵します。
(大浦 結那)



クロダイ幼魚



クロダイ成魚

(絵・弓削 朱花梨)



明石川下流の汽水域でタモ網で捕まえたクロダイの幼魚です。草の茂みにかくれていました。



明石川河口で釣れたクロダイの未成魚です。とても引きが強かったです。

キチヌ

黄知奴

Acanthopagrus latus

タイ科 クロダイ属

千葉県・新潟県～九州

40cm

クロダイとよく似ていますが、体の色がクロダイと比べて白っぽく、腹びれと尻びれと尾びれの下部が黄色いことで見分けられます。

産卵期はクロダイは春ですがキチヌは秋です。クロダイと同じように初夏～晩秋は明石川下流に幼魚から未成魚が逆ってきます。(人見歩)



キチヌ(絵・弓削 朱花梨)



冬の明石川下流の汽水域で群れを追い込んでタモ網で捕まえたキチヌの幼魚たちです。



明石川河口で釣れたキチヌの未成魚です。腹びれが黄色く、体色がクロダイよりも白っぽく見えます。

ムラソイ

斑曹以

Sebastes pachycephalus

ムサシ科 ムサシ属

北海道南部～宮崎県までの太平洋岸
日本海沿岸 瀬戸内海 東シ海

15～30 cm

浅い海の岩礁に生息し、防波堤の下やテトラポットなどにもいて、エビや魚やゴカイ類を食べる肉食です。明石川河口でも釣れました。

海釣りをする人には、おいしい魚としても有名です。

(中村 颯希)



ムラソイ (絵: 弓削 朱花梨)



ムラソイが釣れた明石川河口です。岩と岩の間に餌を入れて釣りました。



明石川河口で釣れたムラソイの幼魚。アオイソメで釣れました。

マタナゴ

真鯛

Ditrema temminckii pacificum

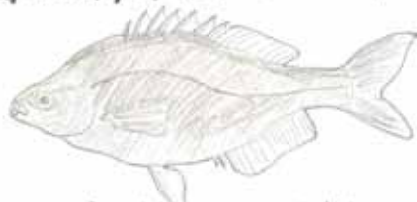
ウミタナゴ科 ウミタナゴ属

関東地方より南の太平洋沿岸

25cm

漁港に係留している漁船の下や防波堤などで群れを作って生息することが多いですが、水温の高い時期には明石川河口にもよく集まってきます。

卵胎生でメスが産仔した稚魚はかなり大きく、すぐに泳ぐことができます。タナゴという名前がついていますがタナゴの仲間ではありません。(中村 颯希)



マタナゴ (絵 弓削朱花梨)



明石川河口で釣りでつかまえたマタナゴの成魚。たくさんのマタナゴがいます。



マタナゴ(上)とクロダレイ(下)。どちらもスズキ目なので体形がよく似ています。

メジナ

眼 仁 奈

Girella punctata

イスズミ科 メジナ属

北海道～沖縄

40～60cm

沿岸の浅い海の岩礁に生息する海水魚で、幼魚や未成魚は防波堤にもよく姿を見せます。2023年6月に初めて干潮時の明石川河口付近の溜まりでメナダなどとともにタモ網で幼魚を捕まえました。グレとも呼ばれています。(巨優愛)



メジナ幼魚 (絵: 弓削 朱花梨)



干潮時の明石川河口付近の溜まりでタモ網で捕まえたメジナの幼魚です。



今まで玉一アクアリウムでは明石市の林崎漁港の防波堤の釣りでは幼魚が釣れたことはありませんが、明石川で捕れたのは初めてです。

カワアナゴ

川穴子

Eleotris oxycephala

カワアナゴ科カワアナゴ亜科カワアナゴ属

茨城県より南～屋久島

15～25cm 兵庫県Aランク
神戸市Bランク

アナゴという名前がついていますが、ドンゴに近い仲間です。明石川河口の汽水域から明石川下流の淡水域まで生息していて、川底の石の下や流木の下や捨てられたタイヤや空缶の中にいることが多いです。いつもは日音褐色に背中が灰褐色の明るい色をしています。背景や感情で体の色が全体的に黒くなったり、縞模様が出たりして変化します。神戸市AランクからBランクに下がり、2015年の夏頃から、明石川下流で合流している伊川や明石川下流～河口によく捕れるようになりました。（徳田 祥花）



カワアナゴ 通常時



カワアナゴ 変化時

(絵・弓削 朱花梨)



明石川下流の汽水域で、タイヤの中にかくれていたのを捕まえたカワアナゴの成魚です。



明石川下流で合流する伊川の淡水域で見つけたカワアナゴの幼魚です。いつもは背中の色は明るい灰褐色をしています。



神戸市アカミガメ防除活動でカメ用の仕掛けに入れたカワアナゴの成魚です。明石川下流の淡水域にいました。



明石川下流の汽水域で捕まえたカワアナゴの大きめの幼魚です。



明石川下流～河口の汽水域で捕まえたカワアナゴの小さな幼魚です。



明石川下流で合流する支流の伊川の淡水域で捕まえたカワアナゴの幼魚です。すぐ近くに同じ立の大きさの幼魚が3匹いました。

ドンコ

鈍子

Odonfobutis obscura

ドンコ科 ドンコ属

愛知県より西の本州、四国、九州

15~25 cm

明石川では、上流から下流まで広く分布し、支流の福知川や田中川などにも生息しています。ヨシボリよりも数が少なく石の下よりも草の茂みにかくれていることが多いです。ヨシボリなどにある吸盤がなく、ぬめりが少ないので、うろこのザラザラ感がよくわかります。どうもうな魚で待ちぶせをして、エビや小魚などを食べます。水がきれいなお所なら泥の多い場所でも生息できます。(大浦 結那)



ドンコ(絵:弓削朱花梨)



小石の中で上手に身をかくしているドンコの成魚です。よく見ないとどこにいるのかわかりません。



茂みをタモ網でガサガサして捕まえたドンコの成魚です。ヨシボリと違って石の下よりも茂みにかくれていることが多いです。



ドンコの1cmくらいの幼魚です。市松模様のような模様があり、感じがヒナハゼに似ています。



ドンコのメスの成魚です。産卵前でお腹が卵でふくらんでいます。



明石川支流の福知川で捕まえたドンコの成魚です。上の2匹がオスで、下の1匹がメスです。



ドンコのオスの成魚です。産卵期により体が黒くなっています。

ヒメハゼ

姫鯨

Fayonigobius gymnauchen

ハゼ科 ハゼ亜科 ヒメハゼ属

北海道～西表島

7cm



明石川下流のこの付近で捕れました。写真は別の日です。

捕れた時はマハゼの未成魚だと思いましたが模様が違っていたので調べたら、ヒメハゼでした。河ロ～内湾でよく見られるそうですが、明石川では下流～河ロで、たまに見られます。背中や体にモザイク模様があります。



ヒメハゼ (絵・弓削 朱花梨)



捕れたヒメハゼです。捕れた時は感じがマハゼに似ていました。

ヒナハゼ

鰍 鰍

Redigobius bikolanus

ハゼ科 ハゼ亜科 ヒナハゼ属

静岡県 ~ 西表島

3cm

兵庫県要調査

小さくてとてもかわいいハゼで、成魚でも全長3cm
ぐらいにしかなりません。明石川では下流～河口
に生息しています。

玉-アクアリウムでは、2017年に明石川河口で初
めてとれ、その後は下流でも多くとれるようになりました。
ひれだけを動かして、スッと横に移動します。

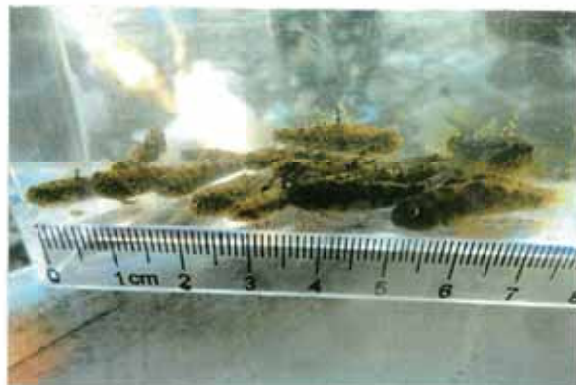
(宮前 陽仁)



ヒナハゼ (絵・永田 惇人)



ヒナハゼの成魚。小さくてかわいくて、ずんぐりとした体型をしています。明石川で2017年に初めてとれました。



最近では明石川下流でもヒナハゼが、こびみにとれるようになりました。



2017年に初めて明石川河口でとれたヒナハゼ。
最初はヨシボリの幼魚かな?と思ったそうです。



アクリウムの中学生のメンバーが自宅で2年近く
飼っているヒナハゼの成魚。赤虫をあけるとよく
食べるそうです。



明石川下流～河口で定期的にヒナハゼの調査
をしています。2021年秋の様子です。



2022年初夏の調査でも明石川下流でヒナハゼ
の成魚がたくさんとれました。おなかに卵を持った
メスの成魚もいて、このあたりで産卵しているらし
いことがわかりました。

アベハゼ

阿部 薫

Mugilogobius abei

ハゼ科 ハゼ亜科 アベハゼ属

宮城県・富山湾より南～瀬戸内海
隠岐・対島・種子島

4～5 cm

運河や河口などの汽水域に生息していると言われますが、明石川では下流の淡水域にも生息しています。頭が丸くて小さなハゼで、干潮時に泥や枯葉の多い溜まりで捕れることが多いです。淡水で飼っても長生きします。幼魚～未成魚は小さくて地味ですが成魚になるとオスメス共に婚姻色がきれいです。(弓削 朱花梨)



アベハゼ (絵・弓削 朱花梨)



明石川下流の淡水域で捕まえたアベハゼの未成魚です。石のF1にいました。



明石川下流の汽水域で捕まえたアベハゼの婚姻色の出ているメスの成魚。お腹に卵を持っていました。

カワヨシボリ

川葦登

Rhinogobius flumineus

ハゼ科 ハゼ亜科 ヨシボリ属

富山県・静岡県より西の本州、四国、九州北部
対島、五島列島

6cm

アクリウム調査では、明石川の源流～下流までどこにもいる魚で、オイカワと同じく明石川のシンボルでしたが、最近では減っています。

腹びれが変化した吸ばんを持ち、いつもは石の下にかかれています。カワヨシボリにとって、きれいな水の流れは必ず必要で、川がせき止められて泥がたまるといなくなります。見る角度によって目の色が変わります。



カワヨシボリ (絵・弓削朱花梨)



明石川支流の櫛谷川の川底の石の裏に産卵していたカワヨシボリの卵。卵孵化間近で目や体が見えます。



明石川中流の川底の石の下にいたカワヨシボリの成魚のペア。最近では減っています。

シマヒレヨシボリ

縞鰭葦登

Rhinogobius sp. BF

ハゼ科 ハゼ亜科 ヨシボリ属

沖縄県以外の日本全国

4~5 cm

明石川では中流~下流に生息していますが、どちらかと言うと、池と明石川につながっている用水路に多くいて、トウヨシボリ縞高鰭型とも呼ばれています。カワヨシボリほどスマートではなく、胴が短い感じます。

(西岡 龍介)



シマヒレヨシボリ (絵・永田 博人)



池と明石川をつなぐ用水路で捕まえたシマヒレヨシボリの成魚です。カワヨシボリよりもずんぐりした感じます。



この個体も用水路にいました。泥の中にかかれていました。

シマヨシボリ

縞 葦 登

Phinogobius sp. CB

ハゼ科 ハゼ亜科 ヨシボリ属

青森県 ~ 南西諸島

7cm

神戸市要調査

頬に迷路のような赤い模様があり、尾びれのつけ根に「く」の字型の模様があるので、他のヨシボリと見分けられます。産卵期のメスの成魚は、お腹が青く輝いてきれいです。カワヨシボリよりも大きく、明石川では支流の伊川や下流の淡水域に生息していますが、数はとても少ないです。
(徳田梨花)

オス♂



メス♀



シマヨシボリ (絵・弓削 朱花梨)



明石川下流で合流している伊川で捕まえたシマヨシボリです。初めて見た感じや手ざわりが、ゴクラクハゼに似ていました。



シマヨシボリは第2背びれと尾びれに細かい斑点があり、尾びれのつけ根に「く」の字の模様があります。

ゴクラクハゼ

極楽鯨

Rhinogobius giurinus

ハゼ科 ハゼ亜科 ヨシボリ属

茨城県・秋田県より南の本州、四国、九州
琉球列島 8cm

神戸市Cランク

ハゼの仲間ですが上から見ると感じが同じ属のヨシボリよりもカマツカに似ています。下流の大きな石の下や空きカンの中によくかくれています。下流に多く、数は少ないですが、明石川上流～中流や、支流の田中川や、用水路にも飛び地のように分布しています。体に青いキラキラが点在しています。

成魚



ゴクラクハゼ (絵・弓削朱花梨)



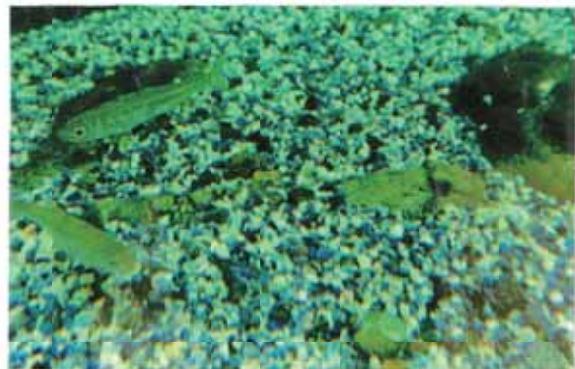
明石川下流でつかまえたゴクラクハゼの成魚。
明石川下流には、たくさんいます。



玉津第一小学校の水そうで飼っていたゴクラクハゼ。
いつも石レンガの上にはいました。



明石川上流の押部谷のあたりでつかまえたゴクラクハゼ。下流に生息しているのに比べて成魚でも小さくてヨシボリに似ています。



玉津第一小学校の水そうで餌も食べずに冬眠するゴクラクハゼ。飼ってみて初めて石に潜って冬眠することがわかりました。



田んぼの中の田中川用水路でつかまえたゴクラクハゼの成魚。下流に生息しているのと比べて、丸く透き通っている感じです。



明石川下流にいたゴクラクハゼ。人もあまりこわがらず、水面観察をしても逃げません。

チチブ

知知武

Tridentiger obscurus

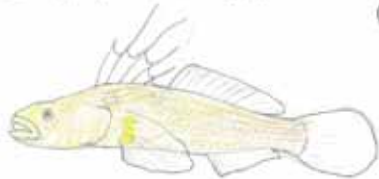
ハゼ科 ハゼ亜科 チチブ属

本州～九州

8 cm

明石川下流で合流する伊川や明石川下流～河口にかけて生息しています。ふつうに生息していますが、年によって幼魚が大量発生してチチブばかりとれたら、反対に全然とれなくなることもあります。オスの成魚の第1背びれの棘条は糸のように長く伸びます。石の下や川に捨てられた大型ゴミの下や空カンの中にもよくいます。

(西岡 龍之介)



チチブ (絵・弓削 朱花梨)



チチブのペアの水面観察です。仲良く石の下に穴を掘っていました。



明石川下流でつかまえたチチブの成魚。石の下にいますが幼魚～未成魚は川の中に捨てられた空カンの中にも多いです。

ウロハゼ

洞 鯊

Glossogobius olivaceus

ハゼ科 ハゼ亜科 ウロハゼ属

茨城県より南の本州、四国、九州、種子島

20 cm

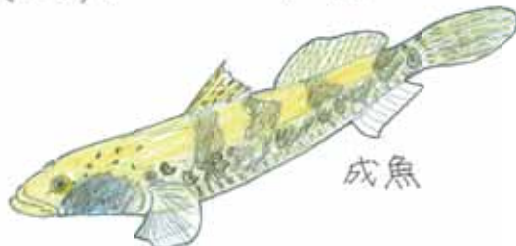
淡水と海水が混ざり合う汽水域の明石川下流〜河口に生息し、川底の石の下やタイヤの中にかくれていることが多いです。

背景や感情で体の色が大きく変化します。

ウロハゼの幼魚は、色が薄くて細長く、感じがマハゼやゴクラクハゼに似ています。
(人見歩)

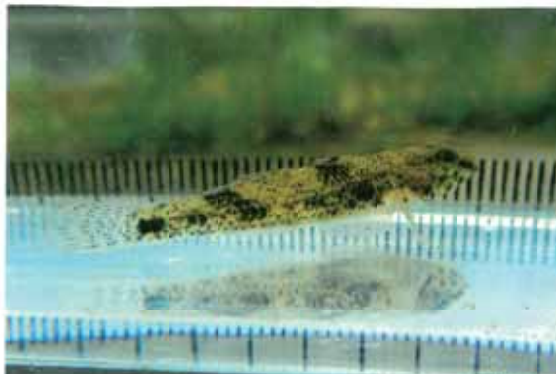


幼魚



成魚

ウロハゼ (絵: 弓削 朱花梨)



明石川下流の汽水域で捕まえたウロハゼの幼魚です。感じがマハゼに似ていました。



明石川下流の汽水域で捕まえたウロハゼの未成魚です。明石川下流の伊川合流点付近から河口にかけて生息しています。

マハゼ

真 鯨

Acanthogobius flavimanus

ハゼ科ハゼ亜科 マハゼ属

北海道～種子島

13～25 cm

海水魚ですが、川の水温が高くなる初夏～晩秋にかけては明石川河口～下流に幼魚が遡ります。石少や石の多い所が大好きで、石の下や空きカンの中にかくれていることも多く、石少の上に群れていることもあります。成長が早く、すぐに大きくなり、初夏～夏は下流で幼魚～未成魚がよく捕れ、秋は河口で成魚がよく釣れ、食べても美味しい魚です。(中村 瑚希)

幼魚



成魚

マハゼ (絵、弓削朱花梨)



初夏に明石川河口で夕暮網で捕まえたマハゼの幼魚です。ヨシボリによく似ています。



晩秋に明石川河口で釣れたマハゼの成魚です。こんなに大きくなります。

ミズハゼ

蚯蚓鰻

Luciogobius guttatus

ハゼ科 ハゼ亜科 ミズハゼ属

北海道～沖縄県

8cm

神戸市Cランク

神戸市の住吉川河口にたくさんいますが、明石川下流～河口にもいるのを2017年に発見しました。石の下にかくれているので、石をめくるととれることが多いです。1匹ずつ微妙に色が違って体が細長くてドジョウのようで、うろこがありません。ハゼの仲間ですが、第1背びれもありません。下流にもいますが海水が流れ込む汽水域に生息していて淡水域にはいません。(北井蒼大)



ミズハゼ(絵・弓削朱花梨)



明石川河口でつかまえたミズハゼの成魚。うろこなくて、ヌヌシしています。



石のかげにかくれているミズハゼの成魚。明石川にも生息していることがわかりました。

ウキゴリ

浮魚体

Gymnogobius urotaenia

ハゼ科 ハゼ亜科 ウキゴリ属

北海道、本州、九州

12cm 兵庫県Cランク
神戸市Cランク

明石川では、スミウキゴリより上流の淡水域に生息し、スミウキゴリよりも数が少ないです。

明石川下流で合流している支流の伊川や明石川下流の流れのゆるやかな川底の石の下にいます。

第1背びれのうしろに黒い斑点があり、体はかたなりヌルヌルしています。(弓削 朱花梨)



ウキゴリ (絵・弓削 朱花梨)



明石川下流の淡水域のゆるやかな流れの川底にいました。



横から見ると頭がひしゃげたように見えます。

スミウキゴリ

墨浮鮎

Gymnogobius petschiliensis

ハゼ科 ハゼ亜科 ウキゴリ属

北海道～屋久島

9cm

神戸市Cランク

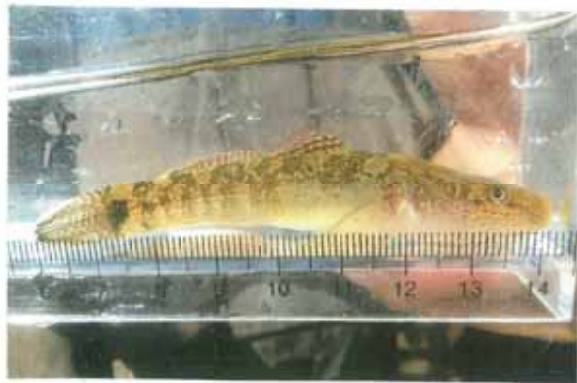
ウキゴリよりも下流の汽水域に生息し、第1背びれに黒い斑点はありません。
玉-アクアリウムは、神戸市の住吉川河口での生息は確認していましたが、2018年に明石川河口でも初めてとれました。
明石川下流の淡水域にはウキゴリが、明石川河口の汽水域にはスミウキゴリが生息していることがわかりました。



スミウキゴリ (絵・弓削 朱花梨)



明石川河口の流木のゆるやかな石の間にいました。海にとっても近い場所でした。



別個体のスミウキゴリの成魚。明石川河口の大きな石の下にニホンナギと共にかくれていました。

マゴチ

真 鱚

Platycephalus indicus

コチ科 コチ属

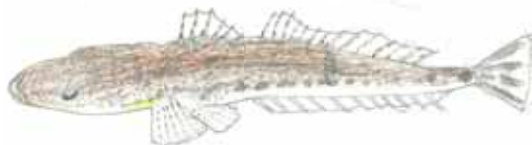
山形県・宮城県より南

50 cm

成魚は砂やドロの海底に生息していますが、夏は汽水域の河口にも侵入してくると言われています。

写真の個体は、河口よりもずと上流の淡水域或の明石川下流の川底にいたところをつかまえました。

体は足で上からふみつけて「べっちゃんこ」にあたように平べたいです。頭にトゲがあり、さわると痛いです。



マゴチ (絵・弓削 朱花梨)



川底の砂を頭にかけて上手に身をかくしているマゴチの幼魚。体の模様が川底の景色によく似ています。



明石川下流の川底にカケれていたマゴチの幼魚。本当に平べたい体形です。

ミナミメダカ

南目高

Oryzias latipes

メダカ科 メダカ属

本州～沖縄県

4cm

絶滅危惧Ⅱ類

兵庫県要注目種

神戸市Cランク

明石川には上流から河口まで広く生息していますが、たくさんいるのは、用水路や支流の小川や下流～河口の草が茂っているところです。どの場所も水の流れが弱くて、水はそれほどきれいではないけれど、栄養がいっぱいあって、プランクトンが多いところです。

2020年ごろからは、田中川用水路や平野大池用水路で1000匹以上のミナミメダカが石確認できるようになりました。

(徳田 桜花)

ミナミメダカ オス♂



ミナミメダカ メス♀



(絵・弓削 朱花梨)



4月に支流の細流にいたミナミメダカのペアです。まさに春の小川です。



明石川中流でつかまえたミナミメダカの成魚。明石川には、たくさんのミナミメダカがいるので、うれしいです。



明石川水系でつかまえたミニメダカです。明石川水系では、ミニメダカが増えています。



田中川用水路でつかまえた卵を持ったミニメダカのメスの成魚です。すぐにリリースしました。



田中川用水路や平野大池用水路では、1000匹以上のミニメダカが確認できるようになりました。



明石川中流の魚道でつかまえた変異メダカです。群れの中で泳いでいる時から目立っていました。放流された個体のようです。

カダヤシ

蚊絶やし

Gambusia affinis

カダヤシ科 カダヤシ属

本州、四国、九州、沖縄県

オス3cm メス5cm

特定外来生物

兵庫県注意種

総合対策外来種

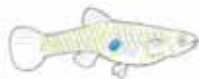
神戸版ブラックリスト

重点対策外来種

外来生物種

明石川では、汚水処理場の排水の出口や工場排水の出口など、水温の高い場所に生息しています。明石川では森友付近や田中川の用水路など限られた場所において、田中川用水路のカダヤシはアクアリウムが駆除をしたので絶滅し、今はミナメダカがたくさんいます。

繁殖力が強いと言われていたますが、明石川では数が少なくミナメダカの方が多いです。(弓削 朱花梨)



カダヤシ (絵・弓削 朱花梨)



ミナメダカによく似ていますが、尻びれの位置や形で見分けることができます。このカダヤシは、垂水区の福田川産です。



右側の大きい1匹がメスで、左側の2匹はオスです。カダヤシはオスとメスで体の大きさが2倍くらいちがいます。

グッピー

Poecilia reticulata

カダヤシ科 グッピー属

北海道～九州の水温の高い場所

2.5cm～4.5cm

総合対策外来種

その他の総合対策外来種

観賞用として日本に持ち込まれ、その後逃げ出したり、逃がされたものが水温の高い場所で生き残り増えています。今まで明石川では下水処理場の温かい排水が流れ込む水路に生息していましたが、だれかが放流したものが2014年には明石川中流で、2019年には明石川支流の田中川の小さな水路で爆発的に増えているのを発見し、駆除を続け、現在は減っています。(大浦結那)

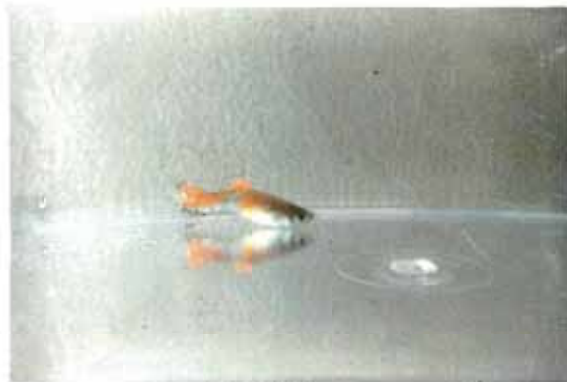


グッピー オス♂



グッピー メス♀

(絵・弓削 朱花梨)



2014年に明石川水系で初めてつかまえたグッピーです。ふつうは明石川の下水処理場の温かい排水が出てくる所になりますが、この個体は明石川中流にいました。



2019年に明石川の支流の田中川の水路でつかまえたグッピーです。この水路ではグッピーが異常繁殖していました。



小さな水路を調査している様子です。この水路に数百匹のグッピーがいておどろきました。



上の小さな水路でつかまえたグッピーです。色とりどりのグッピーは、とてもきれいで野生化しているが、この付近で放流された可能性が高いです。



水路の暗渠付近を調査している様子です。暗渠付近は冬でも水温が高いことがわかりました。



上の暗渠付近でつかまえたグッピーです。体形がメダカやカダヤシに近くなり地味で、この付近で野生化している可能性が高いです。

ギギ

義 義

Pseudobagrus nudiceps

ギギ科 ギバチ属

近畿より西の本州、四国、九州東北部

25~30cm

神戸市Bランク

ナマズに似ていますが、ひげが8本あり、あぶらびれも
あります。水の汚れや環境の変化に弱く、川底が
きれいな砂から泥に変わると、すぐにいなくなりますが
最近の調査では土増えています。
背びれと胸びれにとげがあり、刺されると痛いと言われ
いますが、ふつうに触って刺されることはありません。
水から出すとよくギィギィと鳴きます。(人見歩)



ギギ (絵: 駒板 なみ)



玉津第一小学校で飼っていた明石川のギギです。
餌を食べる時以外は、流木の下にかくれていました。
大きく育たので元の明石川にリリースしました。



明石川中流で捕まえたギギの幼魚です。最近
捕れることが多くなりました。



つかまされたギギは、水から出すと口を伸ばして「ギィギィ」と鳴きます。



明石川中流の浅瀬にいたギギの未成魚。くもりだったので浅瀬に泳いでいました。



ギギは昼は流れの弱い川岸の草の茂みで休んでいることが多いので、そこをタモ網でねらうとよくとれます。



明石川中流でとれたギギの幼魚。最近では平野大池の用水路でもとれるようになりました。



6月につかまえた産卵間近のギギのメスの成魚。
すぐにリリースしました。



上のギギのメスの成魚をリリースした場所で、その後生まれたギギの小さな幼魚が20匹くらいとれました。



その後も同じ場所で幼魚たちは育てました。



2021年7月の明石川中流調査でもギギの幼魚がたくさんとれました。1回目は23匹、2回目は18匹とれました。

ナマズ

魚

Silurus asotus

ナマズ科 ナマズ属

日本全国

60 cm

深くて流れが少ない川底に泥が溜まっているような所に生息していますが、きれいな水を好みます。
ナマズの幼魚をヌマエビを餌にして飼うと、すぐに大きくなります。
明石川沿いの田んぼの多くがパイプラインになって、ナマズが田んぼに進入して産卵することは難しくなりましたが、明石川中流の流れの弱みや用水路などに多く産卵し、幼魚が適応して成長しています。(井上倭希)



ナマズ(絵・弓削朱花梨)



明石川中流で捕まえたナマズの成魚です。
60cm近くありました。



田中川用水路で捕まえたナマズの成魚です。
用水路にもこんなに大きなナマズがいます。



産卵するために浅くて流れがゆるやかな草の茂みがある場所へ移動してきたナマズの成魚です。



ナマズが産卵した草の茂みから採取したナマズの卵です。



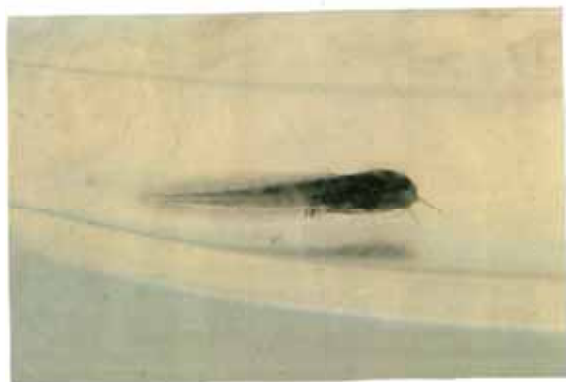
卵孵化する1日前のナマズの卵です。もう開裂ができています。



卵孵化して間もないナマズの仔魚です。まだ透明です。



孵化3日後のナマズの仔魚です。お腹にはまだ卵黄があります。



孵化5日後のナマズの仔魚です。お腹の卵黄がなくなっています。



明石川中流で捕まえたナマズの幼魚です。草の茂みの中にヌマエビやハグロンボの幼虫と一緒にいました。



ナマズの幼魚とカエルの幼生のオタマジャクシが似ていると言われますが、そんなに似ていません。左がオタマジャクシで右がナマズの幼魚です。

テングヨウジ

天狗楊枝

Microphis (Oostethus) brachyurus brachyurus

ヨウジウオ科 ヨウジウオ亜科 テングヨウジ属

神奈川県相模湾より南

(黒潮が通る太平洋沿岸に多く瀬戸内海では珍しい)

25cm

名前の通り、大きな楊枝や木の枝のようで、フネフネと泳ぐことなく、棒のようにゆっくりとスーッと移動します。玉-アクアリウムは、2020年の秋に初めて明石川河口で捕獲しました。河口でも汽水域ではなく、水が流れている淡水域の草が茂っている場所でした。観察すると体側にごく薄い赤色の縦筋がありました。(西岡 龍大介)



テングヨウジ (絵 永田 惇人)



とってすぐにバケツに入れて上から見たテングヨウジ。体を曲げず、木の枝のようにスーッと泳ぎます。



他のヨウジウオより吻が長く、背びれが体の後方にあり、体側に赤色の縦筋があるのが特徴です。

ボラ

鱈

Mugil cephalus cephalus

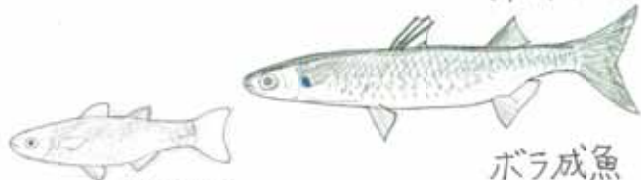
ボラ科 ボラ属

日本 全国

60 cm

春～初夏になるとボラの幼魚の大群が海から明石川下流に遡ってきます。川底の石に生えたコケを群れにやって身をひる返しながら食べる様子は、オカフによく似ています。他の魚と少し違って、胸びれが上の方に付いています。他の魚と少し違って、胸びれが上の方に付いています。胸びれの元には青色の斑紋があり、第1背びれと第2背びれは離れています。追い込まれると水面を飛んで逃げます。

(中村 颯希)



ボラ幼魚

ボラ成魚

ボラ (絵、弓削 朱花梨)



明石川下流の汽水域で群れを追い込んで捕まえたボラの幼魚です。春～初夏に明石川を遡ってきます。



明石川の汽水域で群れを追い込んで捕まえたボラの成魚です。こんなに大きくなります。

メナダ

目 奈 陀

Chelon haematocheilus

ボラ科 メナダ属
北海道～九州

1m

2023年初夏の干潮時に明石川の河口近くまで川を下った時に溜まりや本流で幼魚が初めて捕れました。感じはボラだったけれど、ボラよりも体が細長くタカハヤのような斑点がありました。ボラは下流まで逆ってきますがメナダは河口や内湾にいて、アクアリウムが河口に行ったので捕まえることができました。メナダは胸びれの元に青色の斑紋はありません。(亘 優 愛)



メナダ (絵・弓削 朱花梨)



干潮時に明石川河口に行き、溜まりにタモ網を入れるとメナダの幼魚がたくさん捕れました。



明石川河口で捕れたメナダの幼魚です。ボラに似ていますが体が細長く、ボラの胸びれのつけ根にある青色斑紋がメナダにはありません。

クサフグ

草河豚

Takihugu nipholes

フグ科トラフグ属

青森県～沖縄県

15cm

明石川の河口に多く生息しているフグで河口近くの橋の上から見ると大きなボラやコイの成魚の群れの近くでクサフグの群れがちろちろしているのが見えます。歯がかたまってクチバシのようになっているので、秋に河口で釣りをすると餌をとられるだけでなく、よく釣糸を切られてしまいます。(徳田 桜花)



クサフグ(絵・弓削 朱花梨)



明石川河口で逃げるクサフグをタモ糸で追いかけて捕まえました。



クサフグを真正面から見るとお腹の小さなトゲトゲがよくわかります。

シマフグ

縞河豚

Takifugu xanthopterus

フグ科トラフグ属

相模湾より南

45～50 cm

国外では朝鮮半島沿岸、黄海、東シナ海と南シナ海沿岸、台湾などに分布している海水魚です。
2019年の秋に明石川河口の釣り調査で初めて2匹釣られました。

肝臓や卵巣に強い毒がありますが、食用フグです。

(徳田梨花)



シマフグ(絵・弓削 朱花梨)



クサフグやクロダイの幼魚と一緒に釣れたシマフグの幼魚です。とてもきれいなフグです。



写真のように背中にもお腹にも小さなトゲがたくさんあって、ガサガサ感があります。

ウシガエル

牛蛙

Lithobates catesbeianus

アカガエル科 アメリカアカガエル属

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

11~18 cm

特定外来生物
総合対策外来種
重点対策外来種

兵庫県警戒種
神戸版ブラックリスト
外来生物種

北アメリカ原産のカエルで、明石川水系では本流の明石川下流や、櫛谷川や田中川や伊川や用水路など、水の流れがおだやかな所に多くいます。たまたに幼生のオタマジャクシが大量発生して、驚きます。肉は鶏肉みたいで淡白でとてもおいしいです。(駒板なみ)



ウシガエル(絵・駒板なみ)



明石川支流の伊川の上南橋付近の溜まりにいたウシガエルのオタマジャクシです。たくさんいました。



明石川支流の伊川の白水橋付近で捕まえたウシガエルの成体です。



明石川中流で大きなウシガエルの成体を捕まえました。きれいな場所にいたので、解体してからあげにして、おいしくいただきました。



ウシガエルの前足と後ろ足の肉で作った骨付きのからあげです。鶏肉みたくてとてもおいしいです。



明石川支流の樋谷川で大量発生したウシガエルのオタマジャクシです。オタマジャクシを捕って振り向いたらまたいる感じで100匹以上駆除できました。



明石川支流の伊川と明石川下流の合流点付近の溜まりで捕まえたウシガエルの幼生と幼体です。

スッポン

鳖

Pelodiscus

スッポン科 スッポン属
本州より南
15～35cm

明石川水系では、深くて流れがゆるやかで川底にきれいな石がたくさんある所に生息しています。
日光浴が大好きですが、人間の姿が見えるとすぐにかくれまわります。ほぼ肉食で調査の時に新人メンバーが、スッポンの幼体をカメの幼体と間違えて手でつかんで噛みつかれたことが何度もあります。在来種か外来種かは不明です。(宮本彩音)



スッポン (絵: 世木友希花)



明石川中流で捕まえたスッポンの幼体です。口を開けて威嚇していましたが、手のひらに乗せるとおとなしくなりました。



明石川中流で捕まえたスッポンの成体です。みんなで交代で甲羅を持って、プーンニ感を確かめました。

アカミミガメ

赤耳亀

Trachemys scripta

ヌマガメ科 アカミミガメ属

放流によりほぼ日本全国

28cm

特定外来生物

総合対策外来種

緊急対策外来種

兵庫県警戒種

神戸版ブラックリスト

外来生物種

明石川水系では、深く流れがゆるやかな場所に生息し、雑食ですが成体になると藻をよく食べています。

オスは前足の爪が長く伸びます。日光浴が大好きで、明石川の堰では集団で甲羅干しをしている姿が見られます。

馬区除をしていますが増え続けていて、馬区除をばたアカミミガメは命を無駄にしないように肥料にしたり解体して食べています。

鶏肉みたいでおいしいです。 (西岡 龍之介)



アカミミガメ オス♂

(絵・世木友希花)



明石川中流で捕まえたアカミミガメの幼体です。明石川水系で繁殖しています。



しかけのカゴ網で捕まえたアカミミガメの未成年体へ成体です。馬区除をしても増え続けています。



アカミガメの幼体はミドリガメと呼ばれ、とてもかわいいですが、長生きして大きくなるので、そのことを知って最後まで飼って欲しいです。



2023年夏の明石川中流の様子です。アカミガメをカゴ網やタモ網で駆除をしても、まだこんなにたくさんアカミガメがいます。



アカミガメを解体している様子です。のこぎりで甲羅の上下を切り離し、足の付け根の肉を取り出します。



アカミガメの足の付け根の肉のからあげです。とれる肉の量は少ないですが、赤身の牛肉や鶏肉のようで、とてもおいしいです。

クサガメ

草龜・臭龜

Mauremys reevesii

イシガメ科 クサガメ属

本州～九州

30 cm

外来種

明石川水系では、最近少しずつ捕れる回数が減っています。甲羅にキールが3本あり、捕まえると独特の臭いを出します。明石川水系ではアライグマに食べられて前足や後ろ足や尻尾の先がない個体が多くなります。オスは成長すると全身が黒くなります。外来種で、ニホンイシガメとの交雑が心配ですが、今は捕まえてもリリースしています。



クサガメ (絵: 世木友希花)



明石川中流の葦の茂みで捕まえたクサガメの幼体です。初夏の頃によく捕れます。



標識がついたクサガメの成体です。明石川水系では淡水ガメの専門家が行動の調査をしているため時々標識がついたクサガメが捕れます。

ニホンイシガメ

日本石亀

Mauremys japonica

イシガメ科 イシガメ属

本州、四国、九州

13~20cm **兵庫県Cランク**

準絶滅危惧 **神戸市Aランク**

明石川水系では、最近捕れる回数が急に減っていますが、特に幼体を見る機会が激減しています。明石川水系ではアライグマに食べられて前足や後ろ足や尻尾の先がない個体が多いです。明石川本流にもいますが、支流の櫛谷川や田中川で見る事の方が多いです。（西岡 龍之介）



ニホンイシガメ（絵：北井 蒼大）



明石川支流の櫛谷川の近くにいたのを玉津第一小学校の児童が捕まえたニホンイシガメの幼体です。幼体が特に減っています。



明石川中流にいたニホンイシガメのメスの成体です。成体も減っています。

ニホンマムシ

日本蝮

Gloydius blomhoffii

クサリヘビ科 マムシ属

北海道～九州

45～60cm

平地～山地、森林などに生息し、水辺が大の好きなので水田や川や用水路の茂みにもいます。黒い縁取りのある黒褐色の斑紋が並んでいます。ふつうヘビは人が近づくと逃げますが、ニホンマムシは毒を持ち、時には逃げずに噛んでくる場合があるので注意が必要です。ニホンマムシがいると、お化粧品のような独特のいい香りがします。(中村 颯希)



ニホンマムシ (絵 弓削 朱花梨)



増水の後、明石川中流の茂みに流され、死にかけていたニホンマムシの未成体です。



棚田のワザリに水路で見つけたニホンマムシの成体です。ふつうのヘビと比べて胴が太い、とがよくわかりました。

ヒバカリ

日ばかり

Hebius vibakari

ナミヘビ科 ヒバカリ属

本州、四国、九州、山崎、屋久島

40~65cm

情報不足

神戸市Cラジ

昔は毒ヘビだと思われていて、名前は「このヘビに噛まれたら命はその日ばかり」と言われていたからです。
水辺が好きで泳ぎも上手です。小魚やカエルやオタマジャクシやミズズミをよく食べ、水面の茂みをかさがしてウナギが捕れたのかと思ったりヒバカリだったことが何回もありました。
アクアリウムメンバーたちが大好きな生き物の一つ、とてもおとなしいヘビです。(中村 颯希)



ヒバカリ (絵・弓削朱花梨)



平野大池用水路にいたヒバカリの幼体です。
みんな交代して触れ合ったあとリリースしました。



昔は毒ヘビだと思われていたヒバカリですが、本当はこんなにおとなしくて、かわいいヘビです。

シマヘビ

縞蛇

Elaphe quadrivirgata

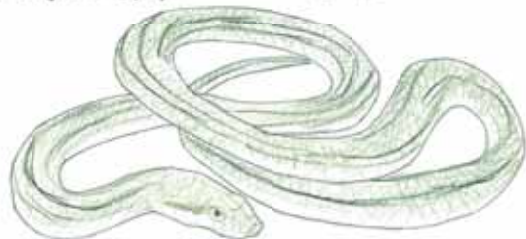
ナミヘビ科 ナメラ属

北海道～九州

80～150cm

神戸市要調査

水田や野原や森林などに生息し、河川敷にもいます。体には4本の黒い縦縞模様が入り、幼体は縦縞がないか、わかりにくく、赤褐色の横縞が入ります。噛んでくる個体もいて、頭を三角形にして、尾を震るわせて威嚇することもあります。(弓削朱花梨)



シマヘビ (絵・弓削朱花梨)



明石川支流の福知川の源流近くの里山のため池の土手にいたシマヘビの幼体です。



春の打=寒い時期だったので 手の上に乗せると、じっとしていました。

アオダイショウ

青大将

Elaphe climacophora

ナミヘビ科 ナメラ属

北海道～九州

1m～2m

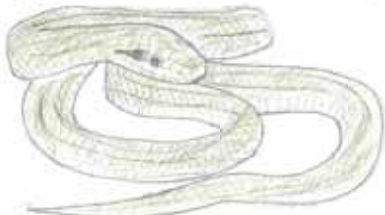
神戸市要調査

明石川中流で見かけることが多く、河川敷や土手などに生息しています。かなり大きくなるヘビで

目の後ろに黒い縞模様があります。

個体差があり、おとなしいのもいれば、狂暴で噛んでくるものもいます。

捕まると、青臭い独特の臭いを出します。(大浦結那)



アオダイショウ (絵・弓削朱花梨)



明石川と田中川の合流点付近で捕まえたおとなしいタイプのアオダイショウです。



明石川中流の土手の農道で捕まえた狂暴なタイプのアオダイショウです。何度も噛まれ、更に何度も噛んできました。

カヤネズミ

茅 鼠

Micromys minutus

ネズミ科 カヤネズミ属

宮城県から南

6 cm

神戸市Bランク

明石川河川敷や野原や田んぼのイネに葉で直径10 cmくらいの球形の巣を上手につくります。

イネ科の雑草の種や昆虫を食べ、棚田の刈り獲前のイネにも巣作りをしています。イネの実は食べていません。

玉-アクアリウムの手-セリーでもチガヤに巣作りをしていて手-セリーではカマキリに食べられているカヤネズミを見たことがあります。(世木友希花)



カヤネズミ (絵: 世木友希花)



手-セリーで見つけたカヤネズミの巣。住宅もあり人通りもあり車もよく通るのにカヤネズミが生息しています。



春先の明石川中流調査の時に河川敷で見つけたカヤネズミの巣です。みんなで観察しました。

ヌートリア

沼狸

Myocastor coypus

ヌートリア科 ヌートリア属

南アメリカ原産

日本では東海地方より西の西日本各地

40~60 cm

特定外来生物
総合対策外来種
緊急対策外来種

兵庫県警戒種
神戸版ブラックリスト
外来生物種

毛皮を取るために移入したものが野生化し、日本でも増えています。

明石川水系では、中流~下流の他に支流の植谷川や伊川でもよく見られます。



ヌートリア (絵: 弓削朱花梨)



明石川中流の万代井統合井堰付近にいたヌートリアです。この付近には多く生息していて、時にはケンカの鳴き声が聞こえることもあります。



明石川支流の植谷川にいた2匹のヌートリアのペアです。この付近では泳いでいる姿もよく見かけます。

ニホンイノシシ

日本猪

Sus scrofa leucomystax

イノシシ科 イノシシ属

本州・四国・九州

110 cm

明石川水系では、福知川支流の源流近くに多く生息しています。源流にはイノシシが寝転がって全身に泥を塗る沼田場や、その近くの田んぼにはたくさんの足跡や浅く土を掘り起こした跡があり、ニホンイノシシは、私たちの身近にいます。神戸市北区の棚田に植えた稲をイノシシに全滅させられました。

(中初音)

ニホンイノシシ親子 (絵・弓削朱花梨)



明石川水系の福知川の源流近くにいたニホンイノシシです。まだ小さいです。



このイノシシは近くの道路で事故にあったのか後足に怪我をしていました。意外と身近にいます。

終わりに (人見 歩)

私は、この図鑑を通して、玉一アクアリウムでの活動をより多くの人に知らせてもらって外来種と在来種の違いを知ってもらいたいです。そして外来種を絶滅させるのは無理じゃなくてこの活動を続けて外来種のない在来種であられるような明右川を玉一アクアリウムとこの図鑑を読んでくれたみなさんでつくっていきたいです。

索引

(弓削 朱花梨)

あ行

アオダイショウ————— 136

アオモンイトトンボ————— 15

アカエイ————— 42

アカミミガメ————— 129

アベハセ————— 97

アメリカザリガニ————— 9

アユ————— 46

イシガイ————— 37

イセゴイ————— 43

ウキゴリ————— 107

ウシエビ————— 2

ウシガエル————— 126

ウチワヤンマ————— 18

ウデマガリコカゲロウ—— 30

ウロハゼ————— 104

オイカワ————— 62

オオクチバス————— 76

オオトゲエラカゲロウ—— 32

オオヒライソガニ属—— 12

オニヤンマ————— 19

か行

カダヤシ————— 112

カマツカ————— 51

カムルチー	74
カヤネズミ	137
カワアナゴ	90
カワムツ	64
カワヨシホリ	98
カワリヌマエビ属	8
ギキ	115
キチヌ	86
ギンブナ	58
ギンヤンマ	20
クサガメ	131
クサフグ	124
グッピー	113

クロダイ	85
クロベンケイガニ	11
クロホシフエダイ	80
クロホシマンジュウダイ	81
ゲンゴロウブナ	57
コイ	55
コウライニゴイ	54
コウライモロコ	52
コオイムシ	23
コオニヤンマ	17
コガタシマトゼケラ	33
コガムシ	35
コクラクハゼ	101

コトヒキ	83
さ行	
サホコカゲロウ	31
サワガニ	14
シオカラトンボ	22
シマイサキ	84
シマヒレヨシホリ	99
シマフグ	125
シマヘビ	135
シマヨシホリ	100
シロギス	82
シロタニガワカゲロウ	29
スジエビ	6

スズキ	75
スッポン	128
スミウキゴリ	108
た行	
タイコウチ	25
タイリクバラタナゴ	60
タイワンシジミ	40
タイワンドジョウ	73
タモロコ	67
チチブ	103
チュウガタスジシマドジョウ	70
チラカゲロウ	28
テナガエビ	5

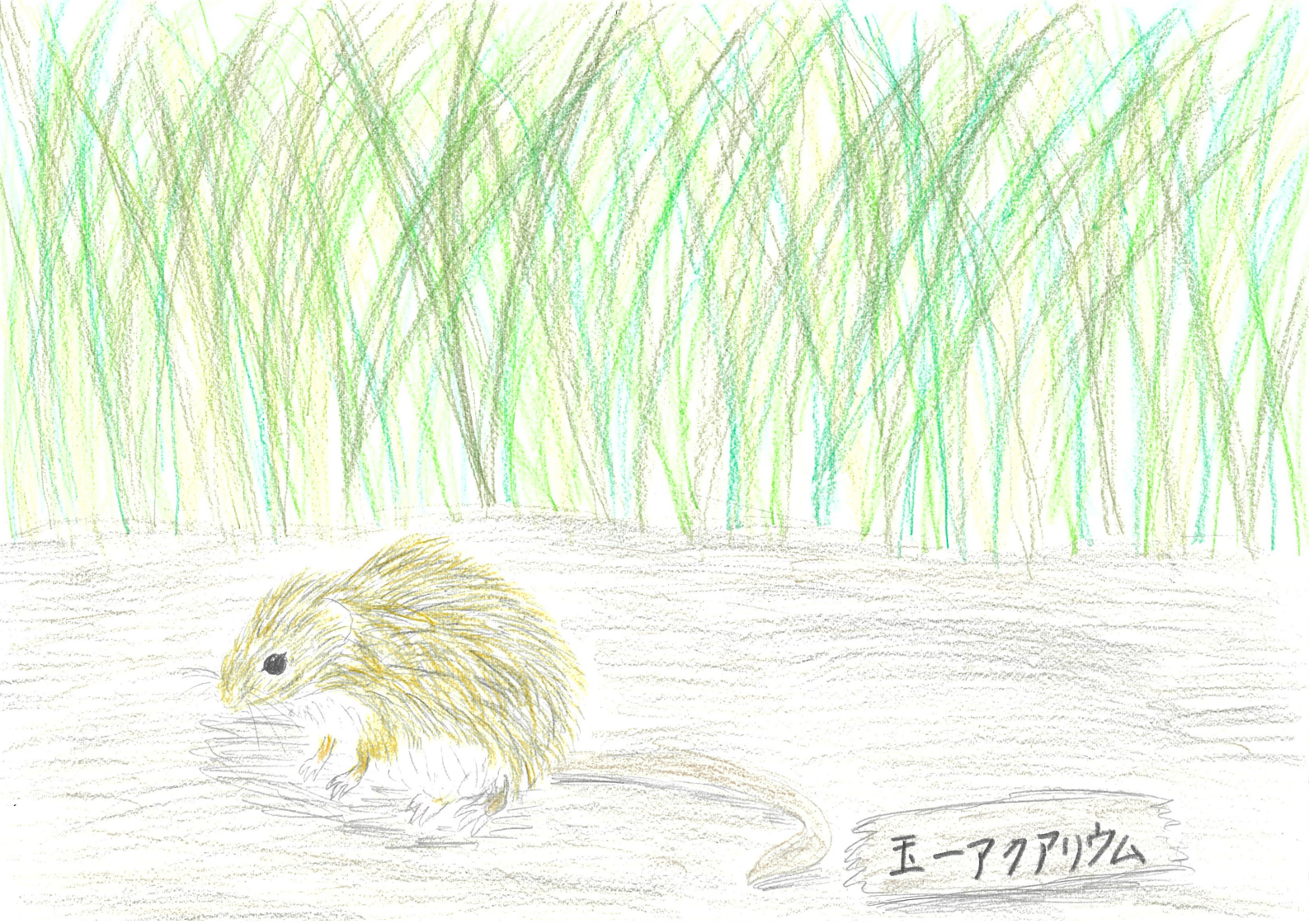
テングヨウジ	121
ドジョウ	71
ドンコ	92
な行	
ナマス	118
ニホンイシガメ	132
ニホンイノシシ	139
ニホンウナギ	44
ニホンマムシ	133
ヌトリア	138
ヌマムツ	65
は行	
ハイロケンゴロウ	34

ヒナハゼ	95
ヒバカリ	134
ヒメハゼ	94
ヒメミスカマキリ	27
ヒラテテナガエビ	4
ブルーギル	78
ボラ	122
ま行	
マゴチ	109
マシジミ	39
マタナゴ	88
マツカサガイ	38
マハゼ	105

ミズカマキリ	26
ミソレヌマエビ	7
ミナミタカイ	36
ミナミテナガエビ	3
ミナミメダカ	110
ミミズハセ	106
ムラソイ	87
メジナ	89
メナダ	123
モクズガニ	13
モツゴ	69
や行	
ヤリタナゴ	59

ヨシエビ	1
ら行	
ロングノーズガニ	72

監修：小田 隆司
編集：玉一アクアリウム



玉-アケアリウム